

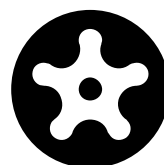
平成 28 年度 高齢者等実態調査報告書

概 要 版



平成 29 年 3 月

文 京 区



本編は文京区ホームページに掲載しています

<http://www.city.bunkyo.lg.jp/>

目 次

1	調査目的.....	1
2	調査方法.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査設計.....	1
5	回収結果.....	2
6	概要版の見方.....	2
7	調査結果（要介護・要支援認定者、第1号被保険者、ミドル・シニア）.....	3
	（1）回答者の属性.....	3
	（2）住まいについて.....	5
	（3）日常生活について.....	8
	（4）高齢者あんしん相談センターについて.....	9
	（5）健康・介護予防について.....	10
	（6）認知症について.....	13
	（7）就業について.....	16
	（8）地域とのつながり・地域活動について.....	18
	（9）災害について.....	22
	（10）介護等について.....	24
	（11）介護者及び介護の状況について.....	31
8	調査結果（介護サービス事業所）.....	35
	（1）事業所の概要.....	35
	（2）従業員について.....	37
	（3）介護人材についての取組.....	40
	（4）従業員からの相談内容.....	41
	（5）大災害発生時に向けた準備・対策.....	42
	（6）サービスの質を向上させるための取組状況.....	42
	（7）医療との連携について行っている取組.....	43

1 調査目的

文京区では、高齢になっても住み慣れた地域で、いつまでも安心して生活することができるよう、高齢者施策の更なる充実や地域包括ケアシステムの実現を目指しています。

平成 29 年度に高齢者・介護保険事業計画（平成 30 年度～32 年度）を策定するに当たり、区内在住の 65 歳以上の高齢者で介護保険の要介護・要支援認定を受けていない第 1 号被保険者と、介護や様々な地域活動の担い手として期待されているミドル・シニア世代に対し、日常生活の実態、介護予防や健康への取組等を把握するとともに、要介護・要支援認定を受けている被保険者に対し、主として在宅生活の継続や家族介護者の就労継続に有効な介護サービスの在り方を検討するため、「高齢者等実態調査」を実施しました。

また、区内介護サービス事業所の概要や介護人材の現状を把握するとともに、防災対策等の危機管理体制や介護保険サービスの質の向上への取組状況を把握するため、区内の介護サービス事業所を対象に、調査を実施しました。

本書は、この「高齢者等実態調査」について報告するものです。

2 調査方法

郵送配付、郵送回収

3 調査期間

平成 28 年 10 月 1 日～10 月 31 日

4 調査設計

調査名	調査対象者	調査数・抽出方法	主な調査項目
①第 1 号被保険者調査			
	要介護・要支援認定を受けていない 65 歳以上の介護保険被保険者	平成 28 年 9 月 1 日現在の介護保険被保険者台帳より 3,000 人を無作為抽出	身体・生活状況、災害に関すること、認知症に対する理解度、就業状況、地域活動等
②ミドル・シニア（50～64 歳）調査			
	要介護・要支援認定を受けていない 50～64 歳の介護保険被保険者	平成 28 年 9 月 1 日現在の住民基本台帳より 2,500 人を無作為抽出	身体・生活状況、災害に関すること、認知症に対する理解度、就業状況、地域活動、介護の経験等
③要介護・要支援認定者調査			
	要介護・要支援認定を受けている、65 歳以上の介護保険被保険者（介護保険施設、認知症高齢者グループホーム、特定施設を利用していない）	平成 28 年 9 月 1 日現在の介護保険被保険者台帳より 3,000 人を無作為抽出	身体・生活状況、災害に関すること、認知症に対する理解度、居宅サービスの利用状況、今後の利用意向、介護者の状況等

調査名	調査対象者	調査数・抽出方法	主な調査項目
④介護サービス事業所調査			
	区内の指定居宅サービス・指定地域密着型サービス等を提供する事業所	162 事業所	収支状況、従業員数、人材確保・人材育成の取組、防災対策等

5 回収結果

種類	配付数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
①第1号被保険者調査	3,000	2,209	73.6%	2,205	73.5%
②ミドル・シニア調査	2,500	1,496	59.8%	1,486	59.4%
③要介護・要支援認定者調査	3,000	1,940	64.7%	1,920	64.0%
①②③計	8,500	5,645		5,611	
④介護サービス事業所調査	162	139	85.8%	139	85.8%

6 概要版の見方

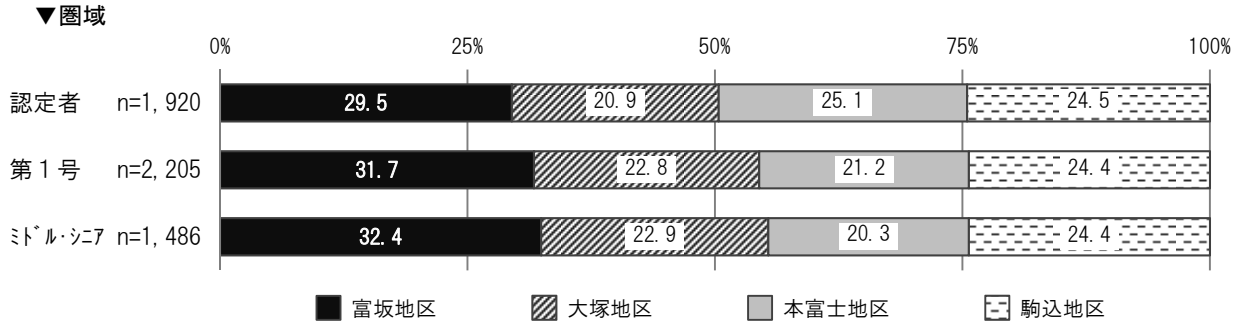
- (1) 調査結果では調査名を省略して記載しています。〔認定者〕とは「要介護・要支援認定者調査」、〔第1号〕とは「第1号被保険者調査」、〔ミドル・シニア〕とは「ミドル・シニア（50～64歳）調査」、〔事業所〕とは「介護サービス事業所調査」を意味しています。
- (2) 図表中の「n」は、各設問に該当する回答者の総数（人）であり、回答率（%）の母数をあらわしています。
- (3) 回答率は、小数点第2位を四捨五入して掲載しているため、合計が100%にならないことがあります。また、回答者が2つ以上回答することができる質問（複数回答）の場合、その回答率の合計は、100%を超えることがあります。
- (4) 図表タイトルの後に「（複数回答）」等の記載がない設問は、単数回答です。
- (5) 選択肢の一部を省略し、又は編集している場合があります。
- (6) 圏域別のクロス集計は、〔認定者〕、〔第1号〕、〔ミドル・シニア〕の全ての調査を合計して圏域別に集計したものであり、「調査全体」と表記しています。
- (7) クロス集計については、分析の柱となる項目（属性）の「無回答」は掲載を省略しています。ただし、「全体」は集計対象の全数を表示しているため、分析の柱となる選択肢の回答者数を合計しても必ずしも全体の数値とは一致しません。
- (8) クロス集計表のうち、横に見て回答率（%）が第1位の項目（「特になし」、「無回答」等を除く）に網掛けをしています。

7 調査結果（要介護・要支援認定者、第1号被保険者、ミドル・シニア）

（1）回答者の属性

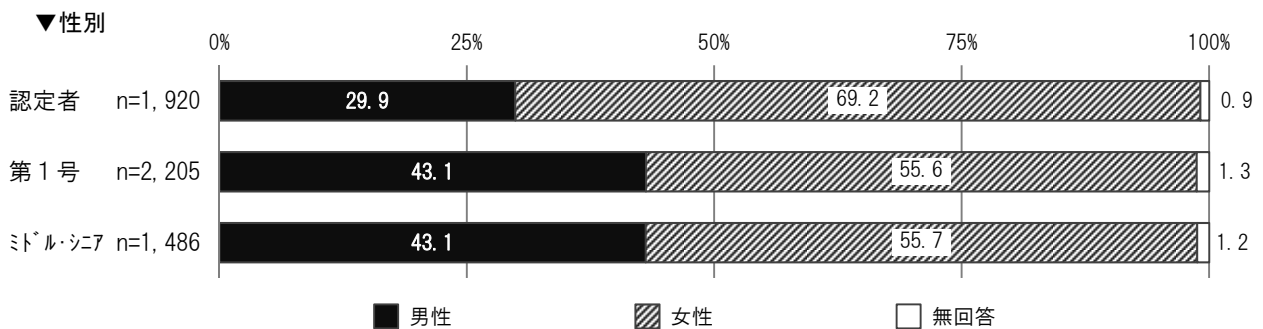
①圏域〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

圏域ごとの対象者の分布は、実際の人口割合とほぼ同様となっています。



②性別〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

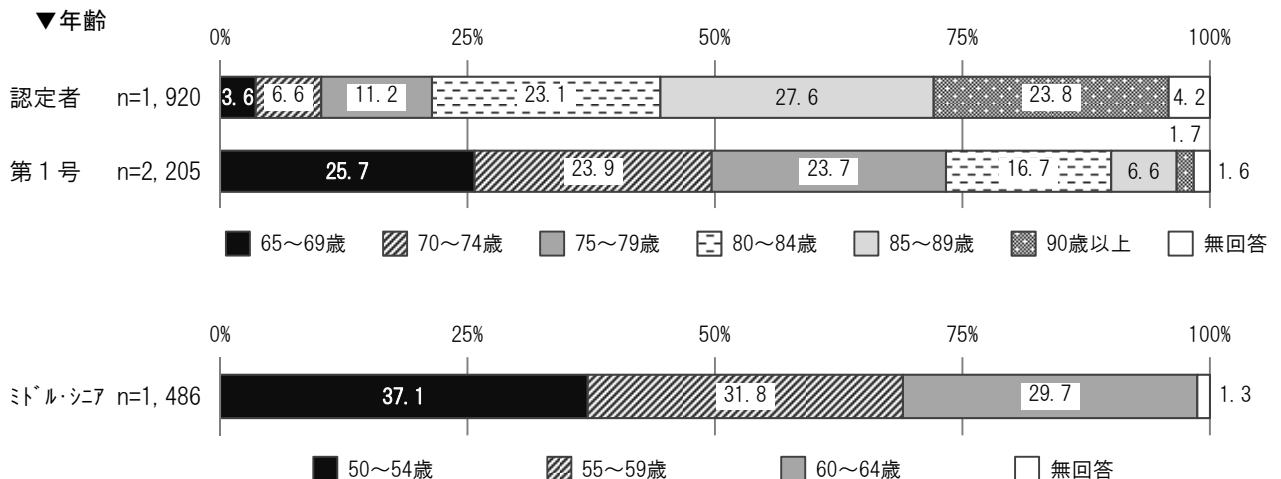
性別は、いずれの対象者も「女性」の割合が高く、〔認定者〕は「女性」が69.2%、〔第1号〕、〔ミドル・シニア〕は「女性」が約56%となっています。



③年齢〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

年齢は、「75歳以上（後期高齢者）」の割合は、〔認定者〕は85.7%となっていますが、〔第1号〕は48.7%となっています。

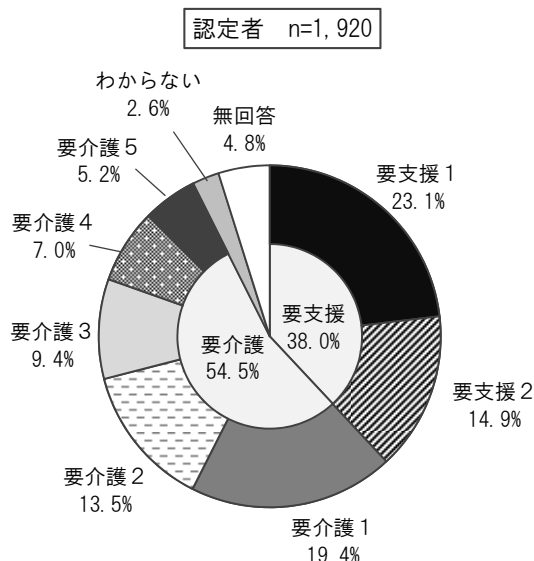
〔ミドル・シニア〕は「50～54歳」が37.1%、「55～59歳」が31.8%、「60～64歳」が29.7%となっています。



④要支援・要介護度〔認定者〕

〔認定者〕の要支援・要介護度は、「要支援1」、「要支援2」を合わせた割合は38.0%、「要介護1」から「要介護5」を合わせた割合は54.5%となっています。

▼要支援・要介護度



⑤世帯構成〔認定者、第1号〕

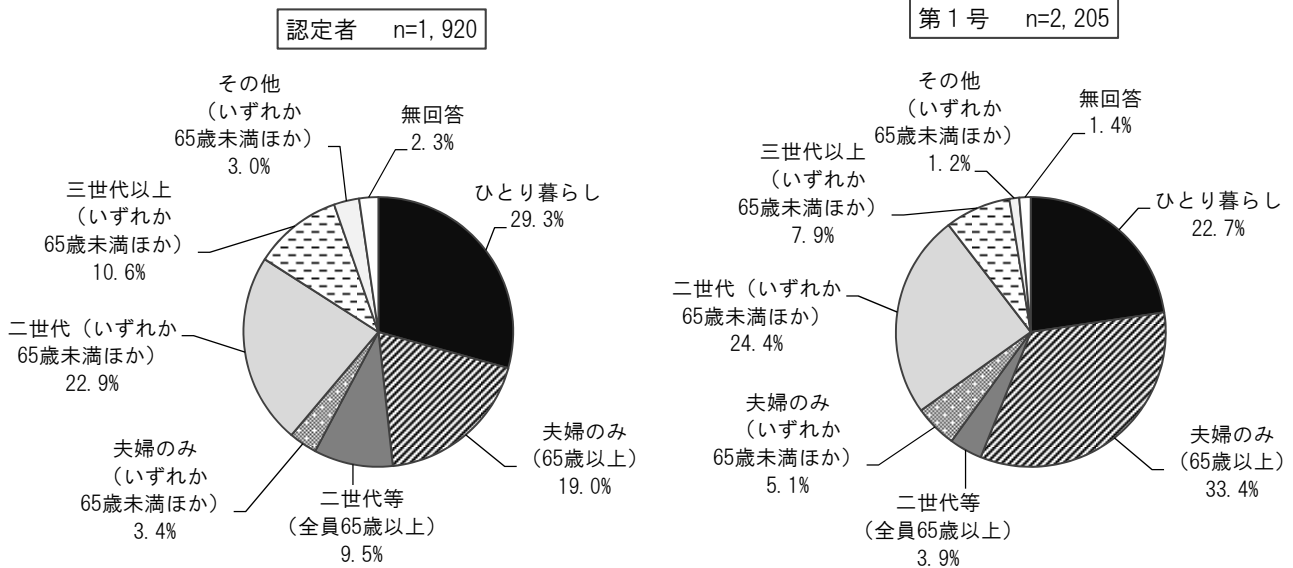
「ひとり暮らし」の割合は、〔認定者〕が29.3%、〔第1号〕が22.7%となっています。また、全員65歳以上の「高齢者のみ」世帯の割合は、〔認定者〕が57.8%、〔第1号〕が60.0%となっています。

▼世帯構成（小分類）

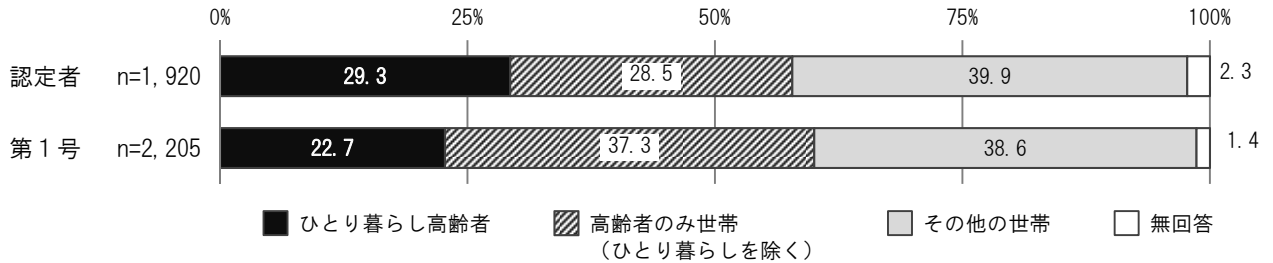
	世帯構成		認定者		第1号	
			人数	%	人数	%
1	ひとり暮らし	65歳以上	563	29.3	500	22.7
2	夫婦のみ	全員65歳以上	364	19.0	736	33.4
3		いずれか65歳未満	26	1.4	58	2.6
4		年齢不明	39	2.0	55	2.5
5	子どもと二世帯同居	全員65歳以上	120	6.3	26	1.2
6		いずれか65歳未満	406	21.1	508	23.0
7		年齢不明	28	1.5	30	1.4
8	親と二世帯同居	全員65歳以上	5	0.3	19	0.9
9		いずれか65歳未満	4	0.2	1	0.0
10		年齢不明	2	0.1	0	0.0
11	三世帯以上同居	全員65歳以上	4	0.2	4	0.2
12		いずれか65歳未満	192	10.0	165	7.5
13		年齢不明	12	0.6	9	0.4
14	その他	全員65歳以上	53	2.8	38	1.7
15		いずれか65歳未満	32	1.7	23	1.0
16		年齢不明	26	1.4	3	0.1
	無回答		44	2.3	30	1.4
	全体		1,920	100.0	2,205	100.0

※全員65歳以上の世帯を網掛けしています。

▼世帯構成（中分類）



▼世帯構成（大分類）

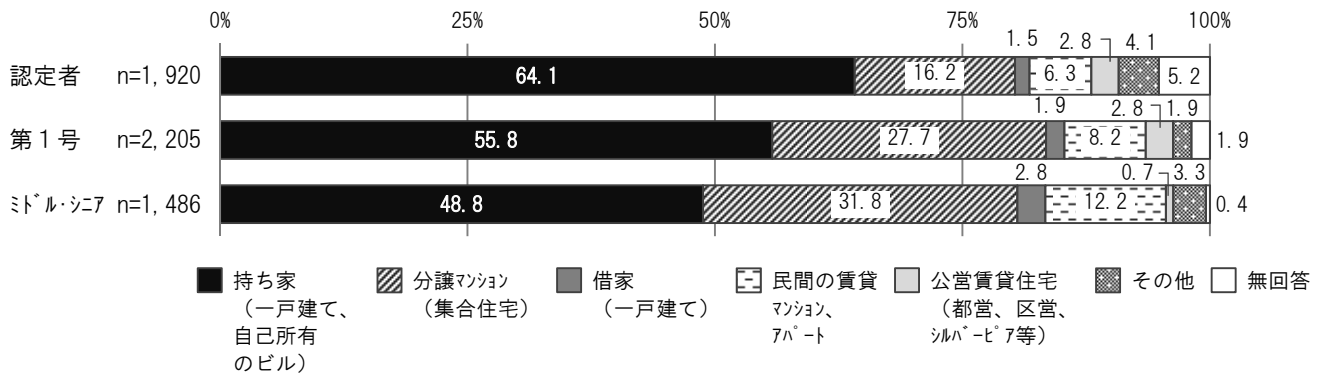


(2) 住まいについて

①住居形態〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

住居形態は、いずれの対象者も「持ち家」が最も多くなっています。いずれの対象者も「持ち家」と「分譲マンション」を合わせると80%を超えています。
 圏域別にみると、「持ち家」の割合は、「駒込地区」が62.3%で最も高くなっています。

▼住居形態



▼住居形態/圏域別

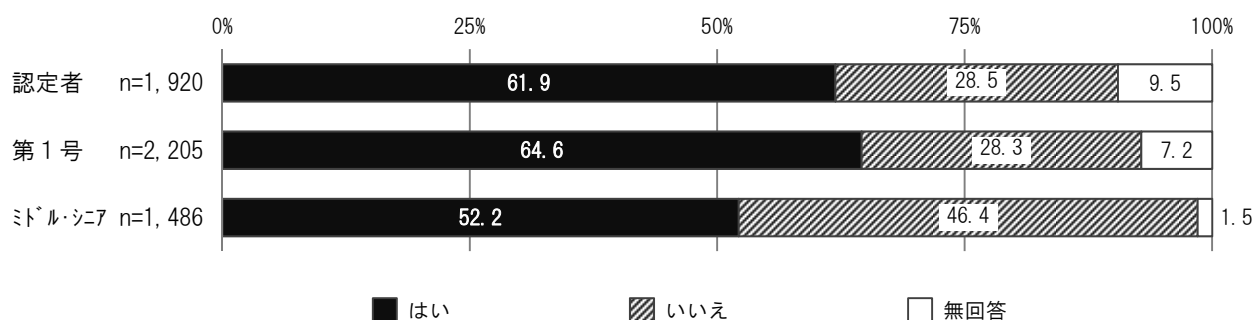
単位：%

項目	回答者数(人)	持ち家(一戸建て、自己所有のビル)	分譲マンション(集合住宅)	借家(一戸建て)	民間の賃貸マンション、アパート	公営賃貸住宅(都営、区営、シルバーピア等)	その他	無回答	
調査全体	5,611	56.8	24.8	2.0	8.6	2.2	3.0	2.6	
圏域別	富坂 地区	1,747	55.5	27.8	1.7	8.5	1.6	2.5	2.5
	大塚 地区	1,244	54.3	28.2	2.4	8.2	1.1	3.3	2.5
	本富士地区	1,250	55.0	24.8	2.2	7.1	3.8	3.0	4.0
	駒込 地区	1,370	62.3	18.0	1.8	10.4	2.6	3.3	1.6

②現在の住まいは、今後介護が必要な状態になった場合に、住み続けられる住まいか〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

現在の住まいは、今後介護が必要な状態になった場合に住み続けられる住まいかについて、「はい」の割合は、〔認定者〕が61.9%、〔第1号〕が64.6%であるのに比べて、〔ミドル・シニア〕は52.2%となっています。

▼今後介護が必要な状態になった場合に住み続けられる住まいか

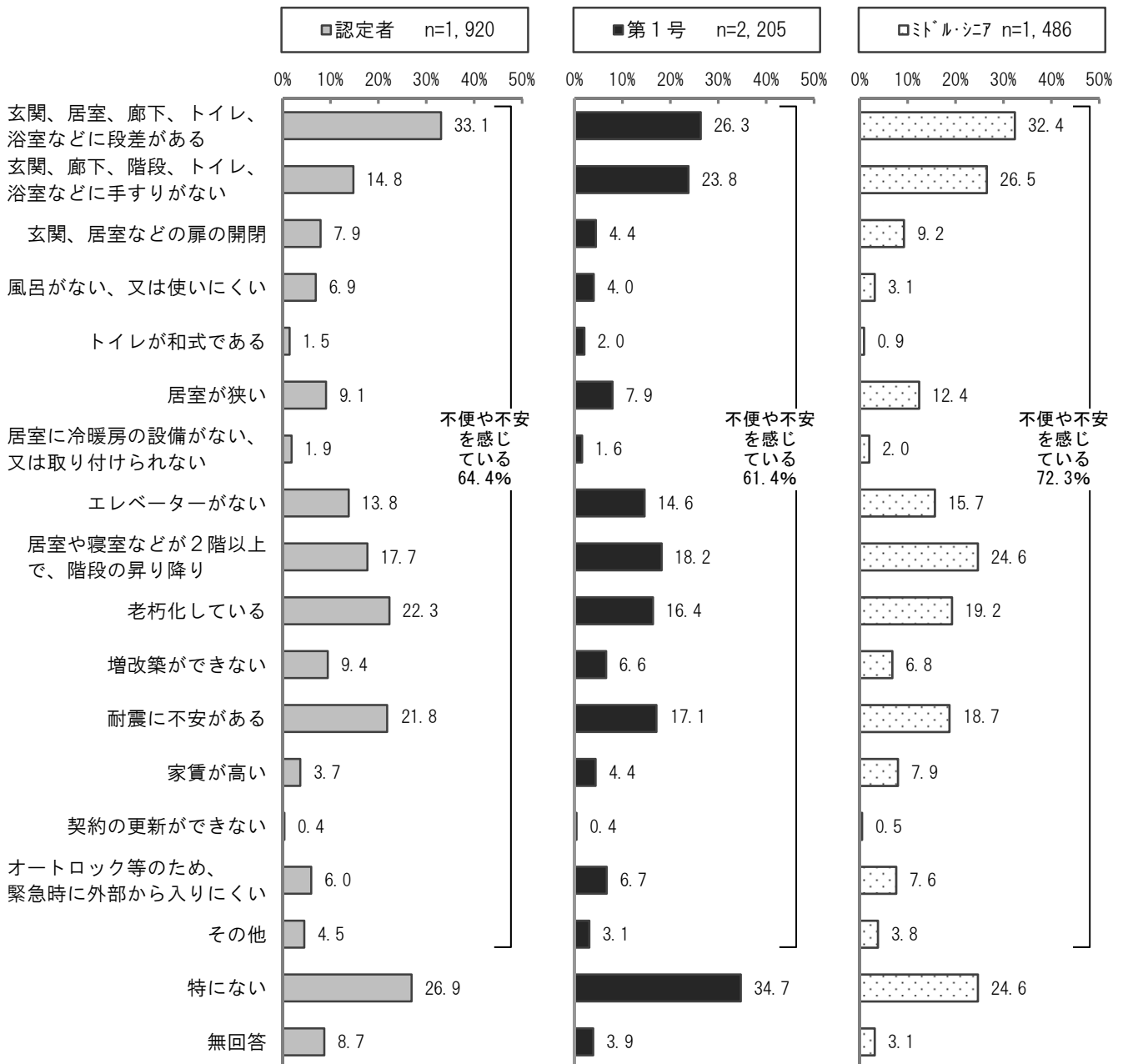


③住まいについて不便や不安を感じていること〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

住まいについて不便や不安を感じていることは、いずれの対象者も「玄関、居室、廊下、トイレ、浴室などに段差がある」が最も高くなっています。〔認定者〕は次いで「老朽化している」が高く、〔第1号〕、〔ミドル・シニア〕は次いで「玄関、廊下、階段、トイレ、浴室などに手すりがない」が高くなっています。

何らかの不便や不安を感じている割合は、〔ミドル・シニア〕が72.3%で最も高く、次いで〔認定者〕が64.4%、〔第1号〕が61.4%となっています。

▼住まいについて不便や不安を感じていること（複数回答）



※「不便や不安を感じている」=100%－「特にない」－「無回答」

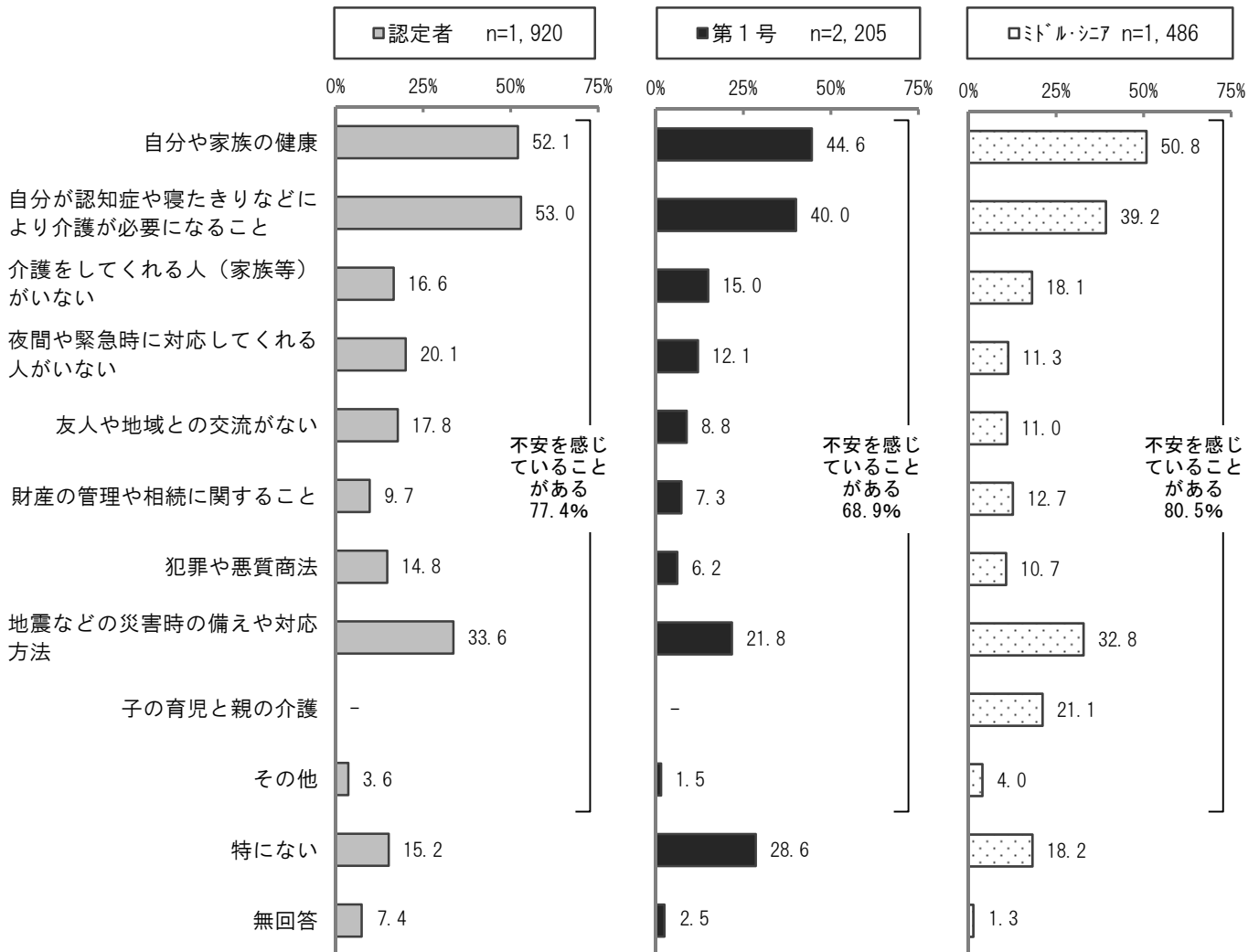
(3) 日常生活について

①現在の生活上の不安〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

生活上の不安は、いずれの対象者も「自分や家族の健康」、「自分が認知症や寝たきりなどにより介護が必要になること」が上位2項目となっています。〔認定者〕は「自分が認知症や寝たきりなどにより介護が必要になること」、「自分や家族の健康」がともに50%を超え、〔ミドル・シニア〕は「自分や家族の健康」が最も高く50%を超えています。

不安を感じていることがある割合は、〔ミドル・シニア〕が80.5%で最も高く、次いで〔認定者〕が77.4%、〔第1号〕が68.9%となっています。

▼生活上の不安（複数回答）



※「子の育児と親の介護」は〔ミドル・シニア〕のみの選択肢

※「不安を感じていることがある」=100%－「特になし」－「無回答」

(4) 高齢者あんしん相談センターについて

① 高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）の認知度

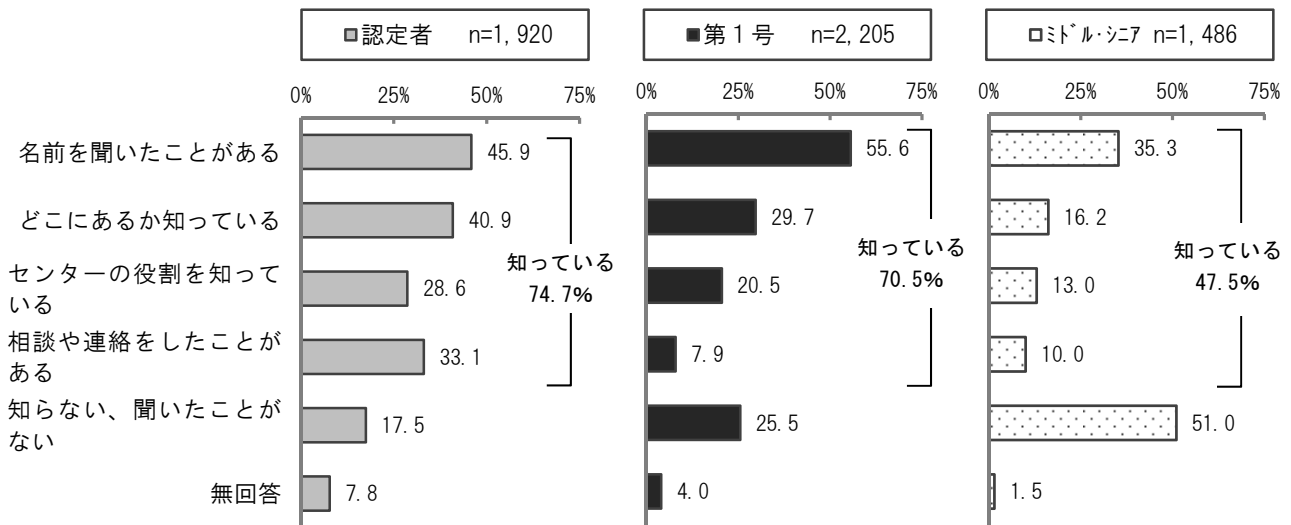
〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

高齢者あんしん相談センターを知っている割合は、〔認定者〕が74.7%で最も高く、次いで〔第1号〕が70.5%、〔ミドル・シニア〕が47.5%となっています。

〔認定者〕、〔第1号〕は、「名前を聞いたことがある」が最も高く、〔認定者〕が45.9%、〔第1号〕が55.6%となっており、次いで「どこにあるか知っている」が高く、〔認定者〕が40.9%、〔第1号〕が29.7%となっています。

一方、〔ミドル・シニア〕は、「知らない、聞いたことがない」が最も高く、50%を超えています。

▼ 高齢者あんしん相談センターの認知度（複数回答）



※「知っている」=100%−「知らない、聞いたことがない」−「無回答」

圏域別にみると、「名前を聞いたことがある」割合は、「本富士地区」が48.1%で最も高くなっています。前回調査（平成25年度）と比較すると、いずれの圏域も各認知度は、10ポイント程度高くなっていますが、「相談や連絡をしたことがある」割合は、大きな変化はみられません。

▼ 高齢者あんしん相談センターの認知度（複数回答）/圏域別

単位：%

項目	回答者数 (人)	名前を聞いたことがある	どこにあるか知っている	センターの役割を知っている	相談や連絡をしたことがある	知らない、聞いたことがない	無回答	
調査全体	5,611	46.9	29.9	21.3	17.1	29.5	4.6	
圏域別	富坂 地区	1,747	46.5	27.5	22.2	15.7	30.5	5.1
	大塚 地区	1,244	45.6	30.5	20.7	17.1	30.7	4.7
	本富士地区	1,250	48.1	28.5	20.6	17.1	29.9	3.8
	駒込 地区	1,370	47.4	33.9	21.4	18.7	26.9	4.7

▼ (参考) 平成25年度調査

単位：%

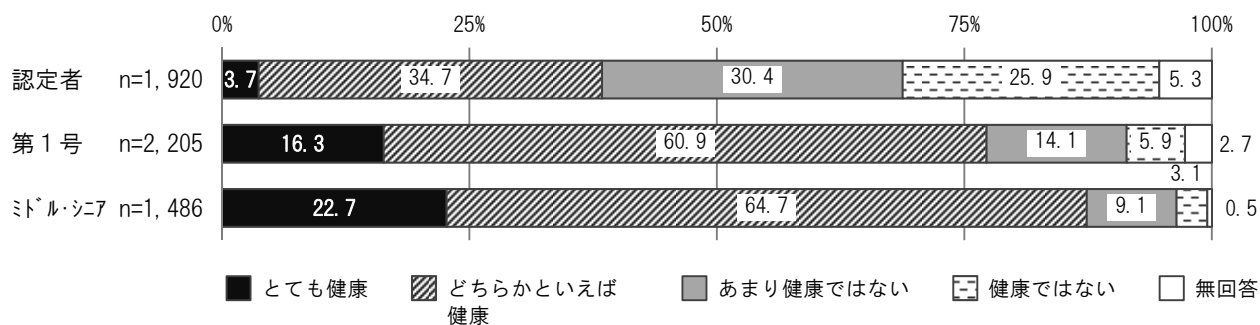
項目	回答者数 (人)	名前を聞いたことがある	どこにあるか知っている	センターの役割を知っている	相談や連絡をしたことがある	知らない、聞いたことがない	無回答	
調査全体	5,301	36.7	20.0	11.8	16.1	37.6	7.0	
圏域別	富坂 地区	1,685	36.8	17.9	12.3	15.0	38.9	7.6
	大塚 地区	1,139	34.9	20.7	11.1	17.5	40.0	6.1
	本富士地区	1,173	38.1	17.3	10.8	13.6	38.1	7.1
	駒込 地区	1,304	37.0	24.6	12.7	18.4	33.3	7.0

(5) 健康・介護予防について

①現在の健康状況〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

主観的な健康感は、いずれの対象者も「どちらかといえば健康」と思う割合が最も高く、〔認定者〕が34.7%、〔第1号〕が60.9%、〔ミドル・シニア〕が64.7%となっています。〔認定者〕は次いで「あまり健康ではない」が30.4%、「健康ではない」が25.9%となっています。〔第1号〕、〔ミドル・シニア〕は、次いで「とても健康」と思う割合が高く、〔第1号〕が16.3%、〔ミドル・シニア〕が22.7%となっています。

▼主観的な健康感



②かかりつけ医・歯科医・薬局の有無〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

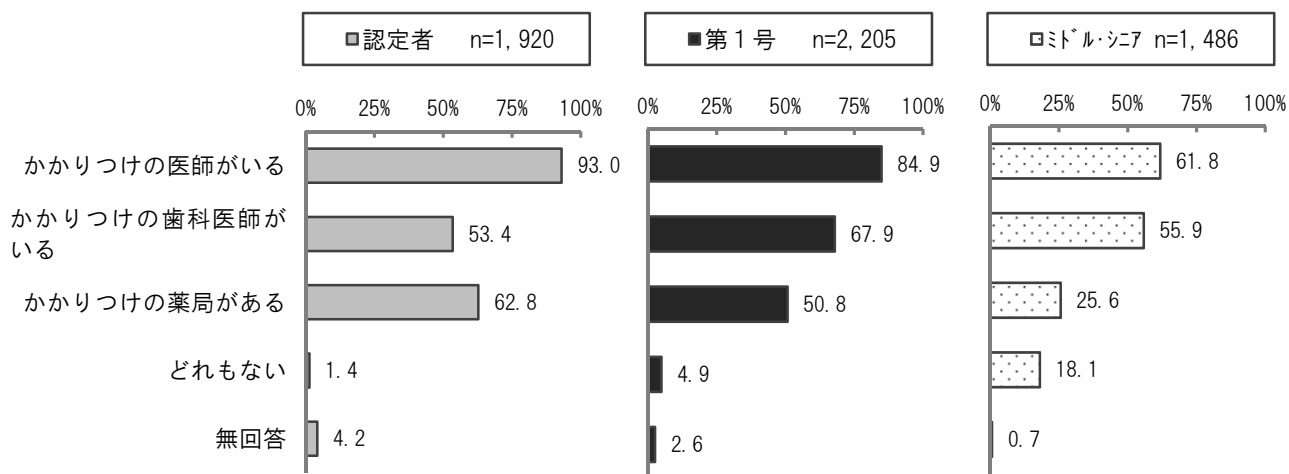
かかりつけ医等の有無は、「かかりつけの医師がいる」は、〔認定者〕が93.0%、〔第1号〕が84.9%であるのに比べて、〔ミドル・シニア〕は61.8%となっています。

「かかりつけの歯科医師がいる」は、〔認定者〕が53.4%、〔第1号〕が67.9%、〔ミドル・シニア〕が55.9%となっています。

「かかりつけの薬局がある」は、〔認定者〕が62.8%、〔第1号〕が50.8%であるのに比べて、〔ミドル・シニア〕は25.6%と低くなっています。

また、〔ミドル・シニア〕は「どれもない」が18.1%となっており、他の対象者より高くなっています。

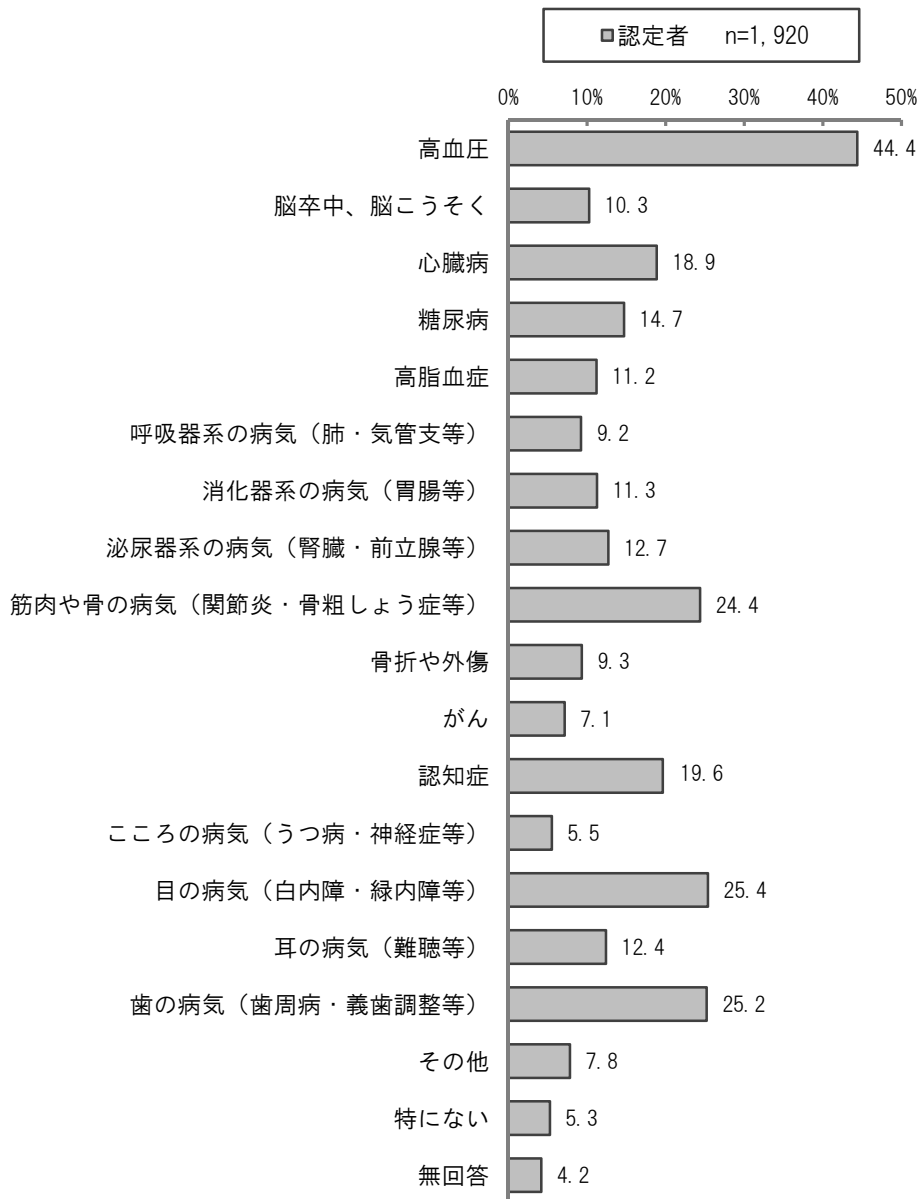
▼かかりつけ医等の有無（複数回答）



③現在治療中の病気〔認定者〕

〔認定者〕の現在治療中の病気は、「高血圧」が44.4%で最も高く、次いで「目の病気」が25.4%、「歯の病気」が25.2%となっています。

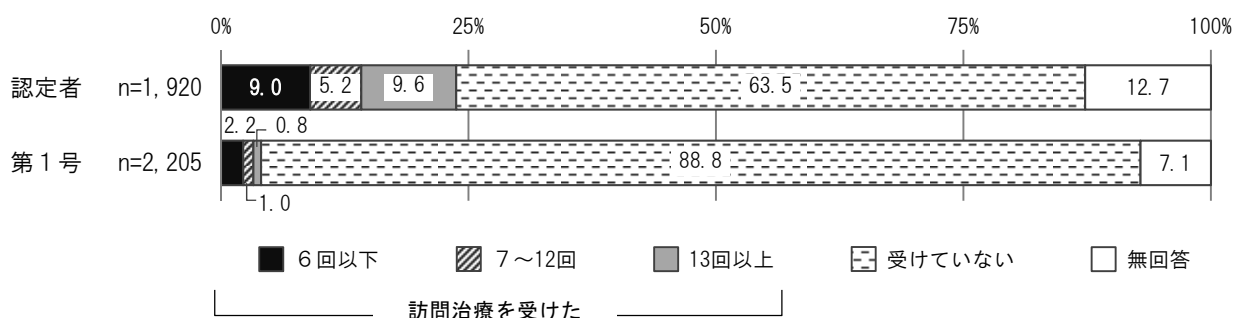
▼現在治療中の病気（複数回答）



④1年間に訪問治療を受けた回数〔認定者、第1号〕

1年間に訪問による治療（往診）を受けた割合は、〔認定者〕が23.8%、〔第1号〕が4.0%となっています。〔認定者〕では「13回以上」が9.6%、「6回以下」が9.0%となっています。

▼1年間に訪問治療を受けた回数



⑤健康の維持・増進や介護予防等のために取り組んでいること

〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

健康の維持・増進や介護予防等のために取り組んでいることがある割合は、〔第1号〕が91.1%で最も高く、〔ミドル・シニア〕が88.2%、〔認定者〕が73.0%となっています。

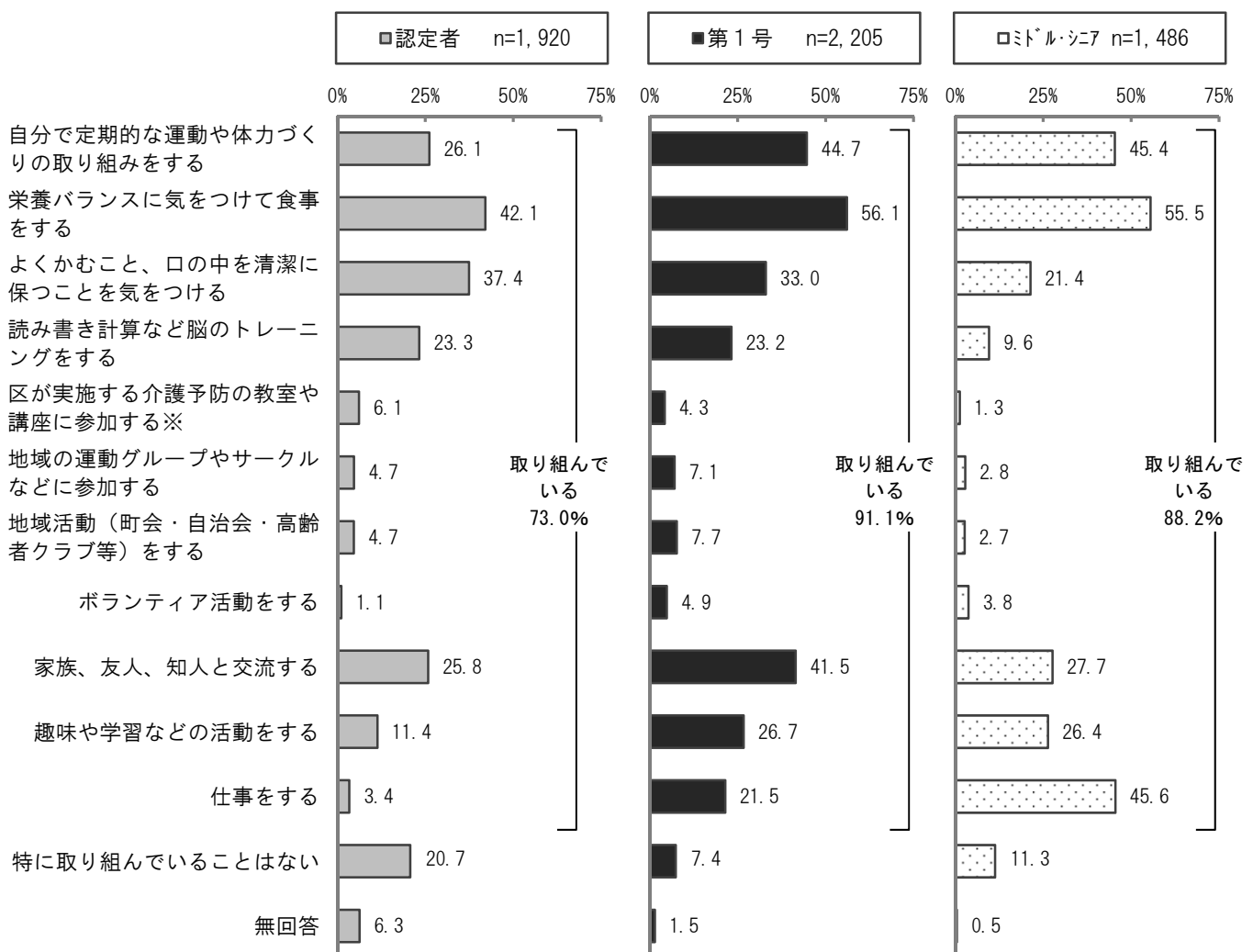
いずれの対象者も「栄養バランスに気をつけて食事をする」が最も高く、〔認定者〕が42.1%、〔第1号〕が56.1%、〔ミドル・シニア〕が55.5%となっています。

〔認定者〕は、次いで「よくかむこと、口の中を清潔に保つことを気をつける」が37.4%、「自分で定期的な運動や体力づくりの取り組みをする」が26.1%となっています。

〔第1号〕は、次いで「自分で定期的な運動や体力づくりの取り組みをする」が44.7%、「家族、友人、知人と交流する」が41.5%となっています。

〔ミドル・シニア〕は、次いで「仕事をする」が45.6%、「自分で定期的な運動や体力づくりの取り組みをする」が45.4%となっています。

▼健康の維持・増進や介護予防等のために取り組んでいること（3つ以内複数回答）



※ミドル・シニアは「区が実施する健康づくりの教室や講座に参加する」

※「取り組んでいる」=100%－「特に取り組んでいることはない」－「無回答」

(6) 認知症について

① 認知症のケアや支援制度について知っていること

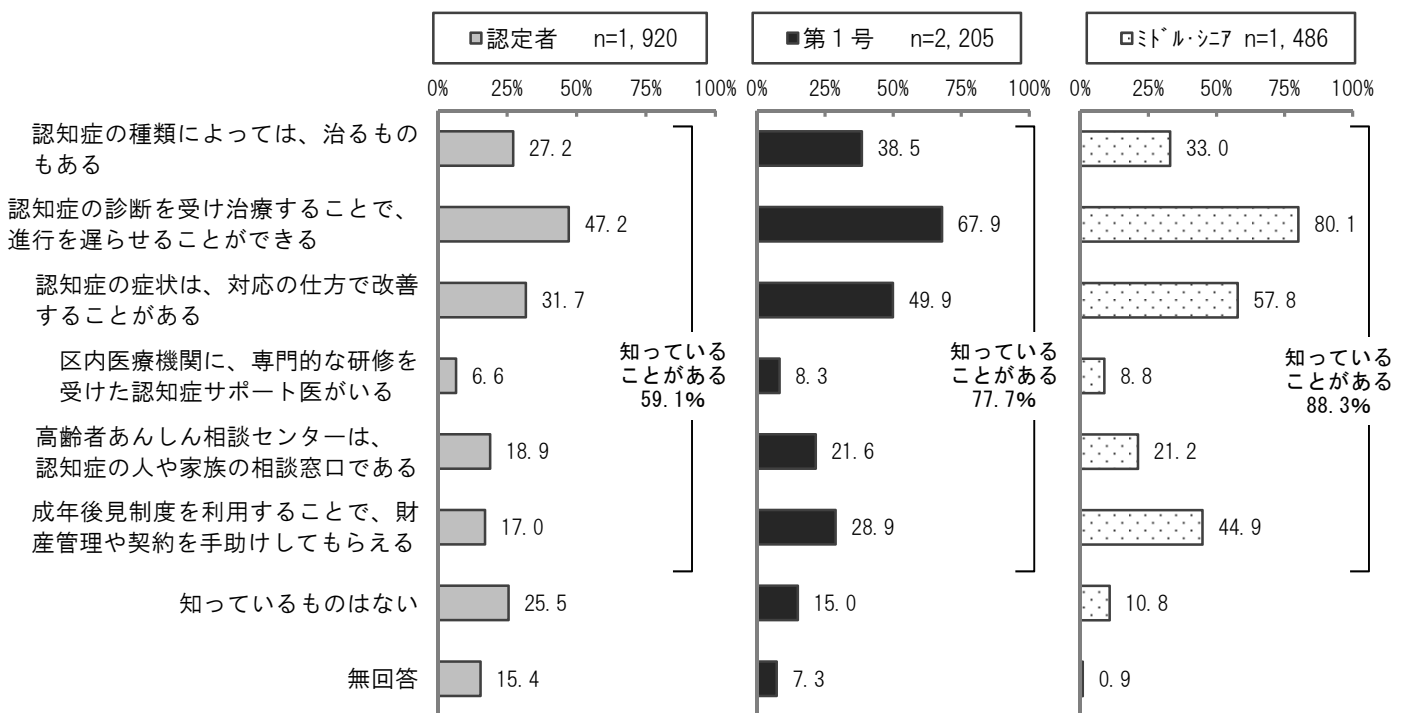
〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

認知症のケアや支援制度について知っていることがある割合は、〔ミドル・シニア〕が88.3%で最も高く、次いで〔第1号〕が77.7%、〔認定者〕が59.1%となっています。

いずれの対象者も「認知症の診断を受け治療することで、進行を遅らせることができる」が最も高く、〔認定者〕が47.2%、〔第1号〕が67.9%、〔ミドル・シニア〕が80.1%となっており、次いで「認知症の症状は、対応の仕方改善することがある」が高く、〔認定者〕が31.7%、〔第1号〕が49.9%、〔ミドル・シニア〕が57.8%となっています。

3番目に高いのは、〔認定者〕、〔第1号〕は「認知症の種類によっては、治るものもある」が〔認定者〕が27.2%、〔第1号〕が38.5%となっており、〔ミドル・シニア〕は「成年後見制度を利用することで、財産管理や契約を手助けしてもらえる」が44.9%となっています。

▼ 認知症のケアや支援制度について知っていること（複数回答）

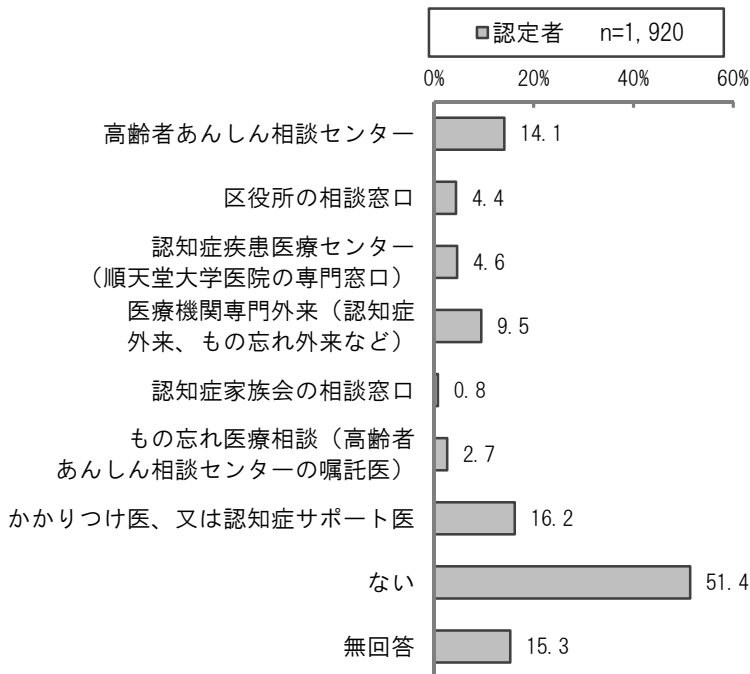


※「知っていることがある」=100%－「知っているものはない」－「無回答」

②-1 認知症に関して相談したことがある、又は利用したい相談窓口〔認定者〕

〔認定者〕が認知症に関して相談したことがある、又は利用したい相談窓口については、「かかりつけ医、又は認知症サポート医」が16.2%、「高齢者あんしん相談センター」が14.1%、「医療機関専門外来」が9.5%となっています。一方、「ない」が51.4%となっています。

▼認知症に関して相談したことがある、又は利用したい相談窓口（複数回答）

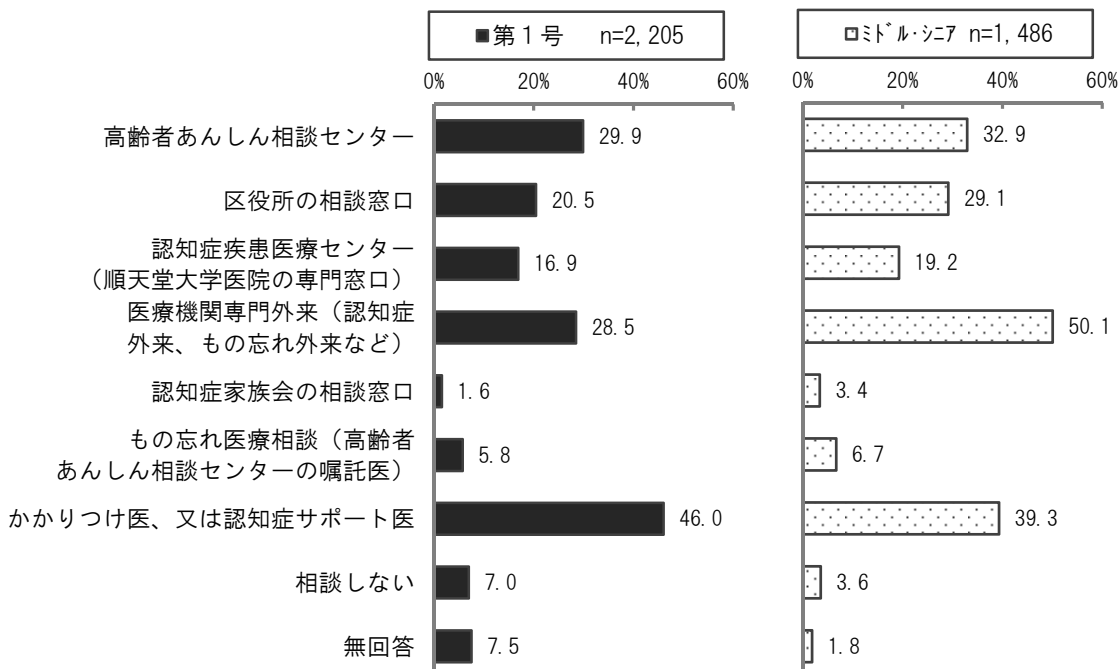


②-2 認知症に関して相談する場合に利用すると思う相談窓口〔第1号、ミドル・シニア〕

認知症に関して相談する場合に利用すると思う相談窓口は、〔第1号〕は「かかりつけ医、又は認知症サポート医」が46.0%で最も高く、次いで「高齢者あんしん相談センター」が29.9%、「医療機関専門外来」が28.5%となっています。

〔ミドル・シニア〕は「医療機関専門外来」が50.1%で最も高く、次いで「かかりつけ医、又は認知症サポート医」が39.3%、「高齢者あんしん相談センター」が32.9%となっています。

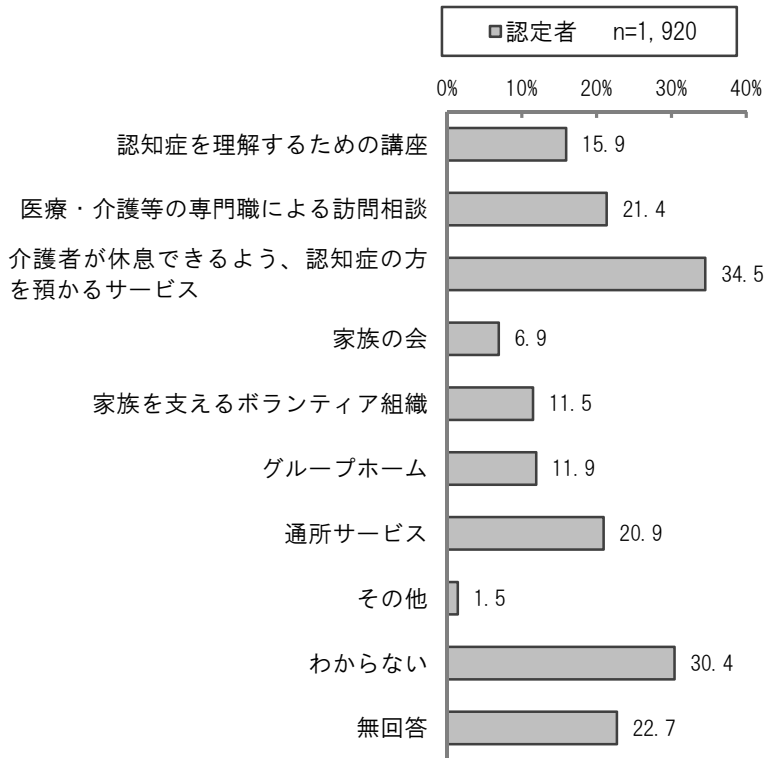
▼認知症に関する相談に利用すると思う窓口（複数回答）



③認知症高齢者のいる家族への支援として必要と感じるもの〔認定者〕

〔認定者〕が認知症高齢者のいる家族への支援として必要と感じるものは、「介護者が休息できるよう、認知症の方を預かるサービス」が34.5%で最も高く、次いで「医療・介護等の専門職による訪問相談」が21.4%、「通所サービス」が20.9%となっています。一方、「わからない」が30.4%となっています。

▼認知症高齢者のいる家族に必要な支援（複数回答）



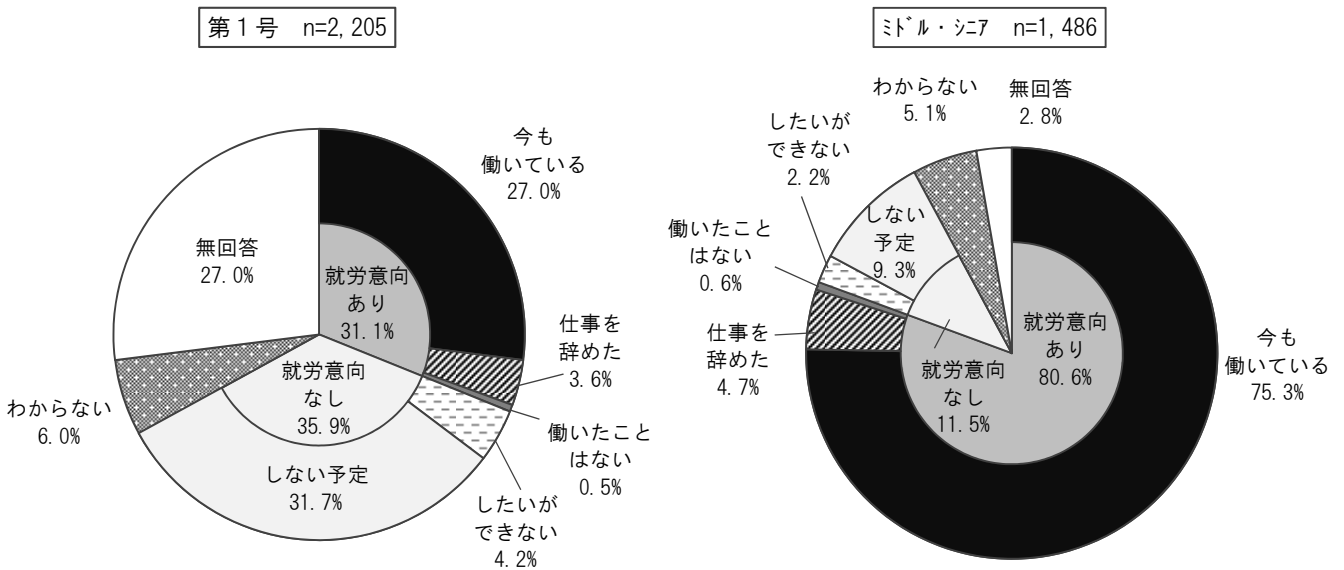
(7) 就業について

①現在の就労状況と今後の就労意向〔第1号、ミドル・シニア〕

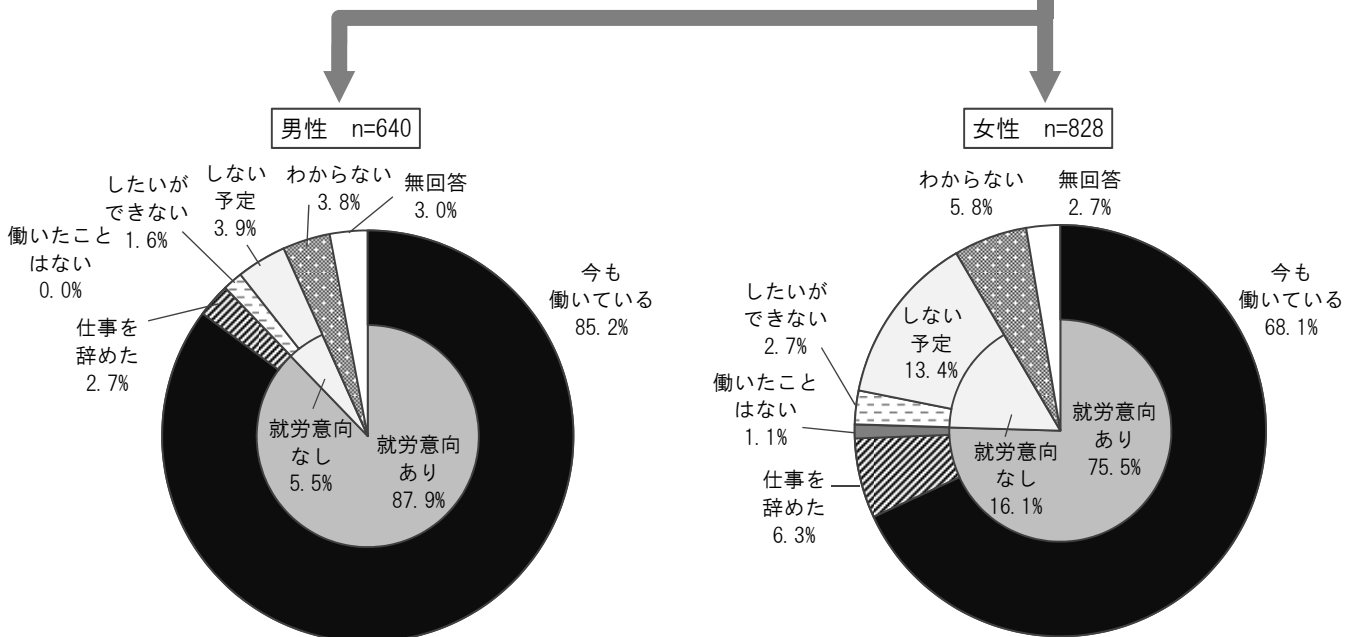
現在の就労状況は、「今も働いている」割合は、〔第1号〕が27.0%であるのに比べて、〔ミドル・シニア〕では75.3%となっています。〔第1号〕は、今後の就労意向のある割合が31.1%、就労意向のない割合が35.9%となっています。〔ミドル・シニア〕は、今後の就労意向のある割合が80.6%、就労意向のない割合が11.5%となっています。

〔ミドル・シニア〕を性別にみると、「今も働いている」割合は、「男性」が85.2%、「女性」が68.1%となっており、今後の就労意向のある割合は、「男性」が87.9%、「女性」が75.5%となっています。また、性別・年齢別にみると、就労意向のない割合は、「男性」の「60～64歳」が11.5%、「女性」の「55～59歳」が16.8%、「60～64歳」が27.6%となっており、年齢が上がるほど高くなっています。

▼就労状況と就労意向



▼就労状況と就労意向〔ミドル・シニア/性別〕



▼就労状況と就労意向〔ミドル・シニア〕/性別・年齢別

単位：%

項目	回答者数(人)	就労意向あり			就労意向なし		わからない	無回答	
		何らかの仕事をしたい	今も働いており、今後も働きたい	今は仕事を辞めたが、今後は何らかの仕事をしたい	働いたことはないが、今後は何らかの仕事をしたい	仕事はしたいができない			仕事はしない予定である
ミドル・シニア全体	1,486	75.3	4.7	0.6	2.2	9.3	5.1	2.8	
男性	50～54歳	228	92.1	1.3	0.0	0.9	0.0	3.5	2.2
	55～59歳	195	84.1	2.6	0.0	2.1	2.6	4.6	4.1
	60～64歳	209	78.5	4.3	0.0	1.9	9.6	3.3	2.4
女性	50～54歳	316	76.3	5.7	1.3	2.2	4.7	7.9	1.9
	55～59歳	275	70.2	5.1	0.7	3.3	13.5	5.5	1.8
	60～64歳	228	54.8	8.3	1.3	2.6	25.0	3.1	4.8

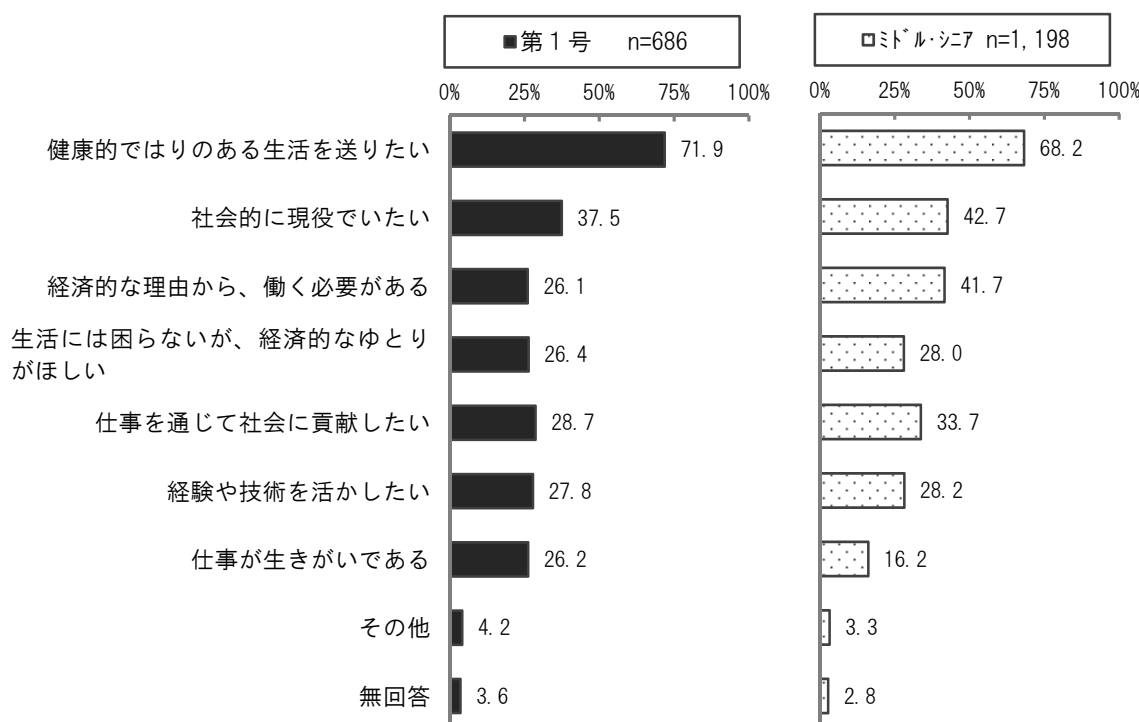
②仕事をしたい（し続けたい）理由〔第1号、ミドル・シニア〕

仕事をしたい（し続けたい）理由は、いずれの対象者も「健康的ではりのある生活を送りたい」が最も高く、〔第1号〕が71.9%、〔ミドル・シニア〕が68.2%となっています。次いで「社会的に現役でいたい」が高く、〔第1号〕が37.5%、〔ミドル・シニア〕が42.7%となっています。

〔第1号〕は次いで「仕事を通じて社会に貢献したい」が28.7%、〔ミドル・シニア〕は次いで「経済的な理由から、働く必要がある」が41.7%となっています。

「経済的な理由から、働く必要がある」は〔ミドル・シニア〕が10ポイント以上高く、「仕事が生きがいである」は〔第1号〕が10ポイント高くなっています。

▼仕事をしたい（し続けたい）理由（複数回答）



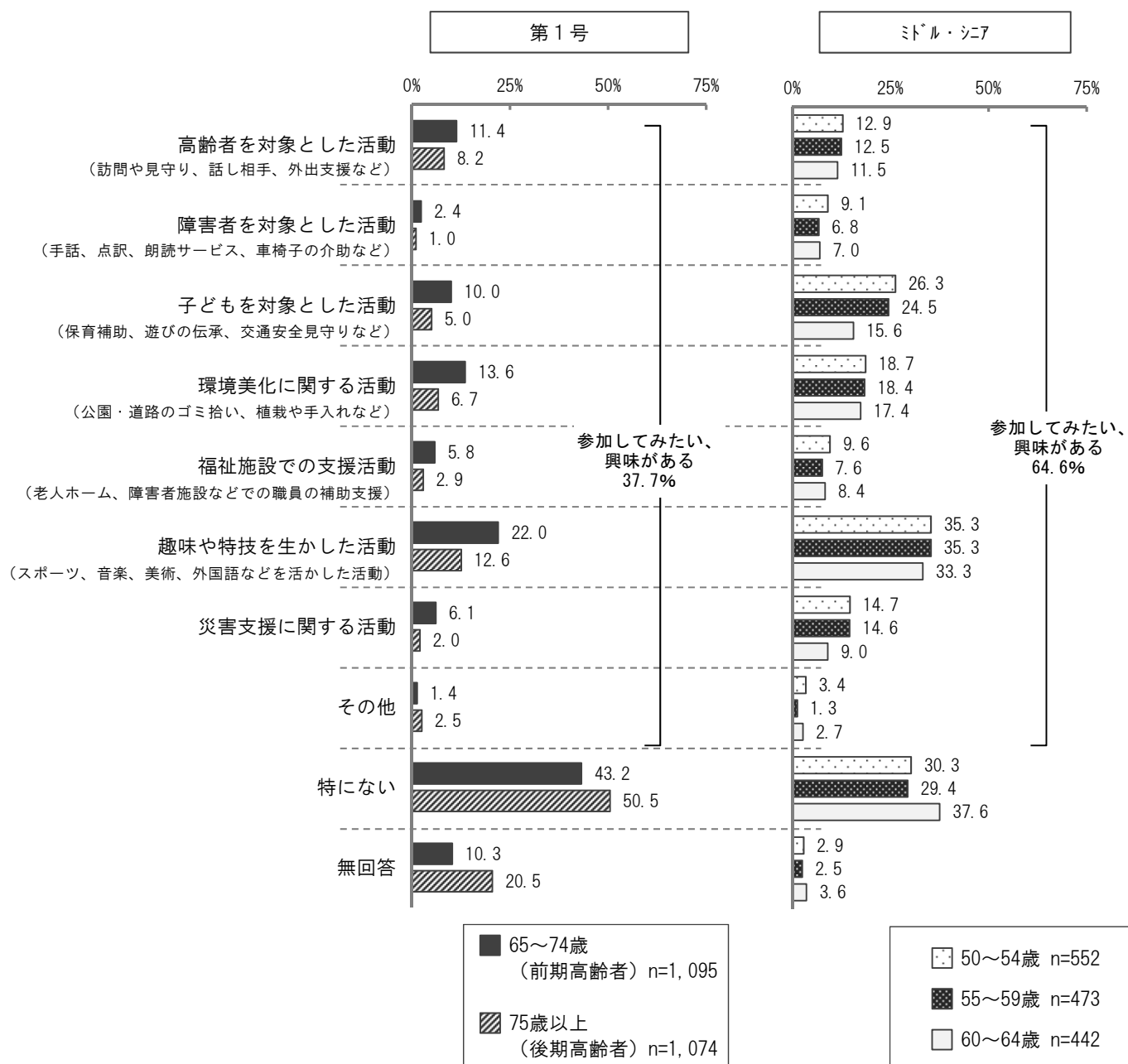
(8) 地域とのつながり・地域活動について

①参加してみたい、興味があるボランティア活動〔第1号、ミドル・シニア〕

ボランティア活動に参加してみたい、興味がある割合は、〔第1号〕が37.7%、〔ミドル・シニア〕が64.6%となっています。〔ミドル・シニア〕はいずれの活動も〔第1号〕に比べて高くなっています。

年齢区分別にみると、〔ミドル・シニア〕の「50～54歳」、「55～59歳」では、「子どもを対象とした活動」の割合が〔第1号〕に比べて10ポイント以上高くなっています。

▼参加してみたい、興味があるボランティア活動（複数回答）



※「参加してみたい、興味がある」=100%－「特にない」－「無回答」

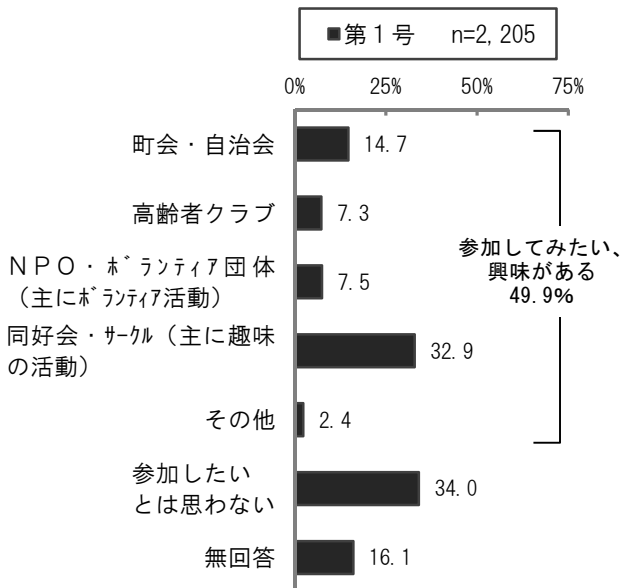
②-1 参加してみたい、現在参加している活動団体やグループ

〔第1号、ミドル・シニア〕

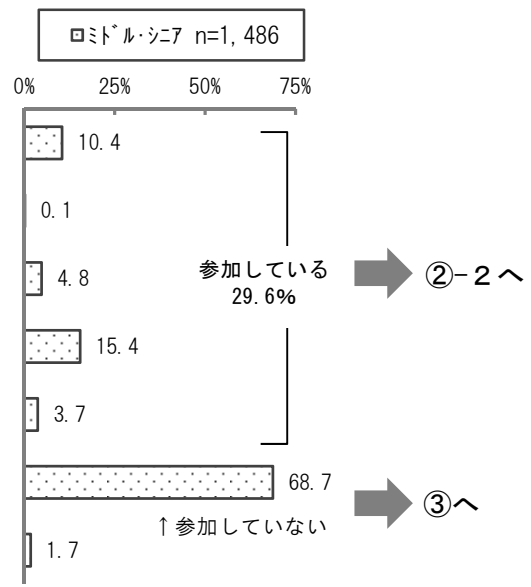
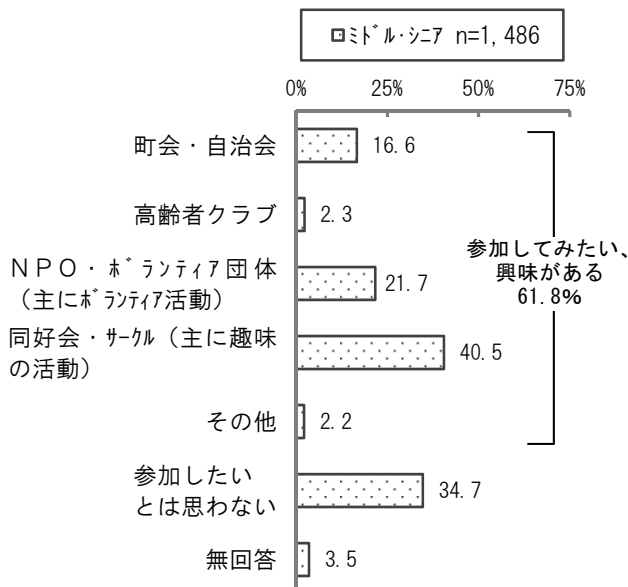
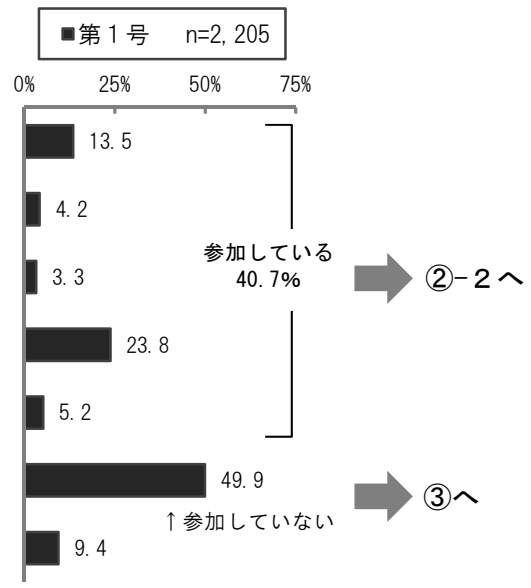
活動団体やグループに参加してみたい、興味がある割合は〔第1号〕が49.9%で、「同好会・サークル」が32.9%、「町会・自治会」が14.7%となっています。現在何らかの活動団体等に参加している割合は40.7%で、「同好会・サークル」が23.8%、「町会・自治会」が13.5%となっています。

〔ミドル・シニア〕の参加してみたい、興味がある割合は61.8%で、「同好会・サークル」が40.5%、「NPO・ボランティア団体」が21.7%となっています。現在何らかの活動団体等に参加している割合は29.6%で、「同好会・サークル」が15.4%、「町会・自治会」が10.4%となっています。

▼参加してみたい活動団体等（複数回答）



▼参加している活動団体等（複数回答）



※「参加してみたい、興味がある」
=100% - 「参加したいとは思わない」 - 「無回答」

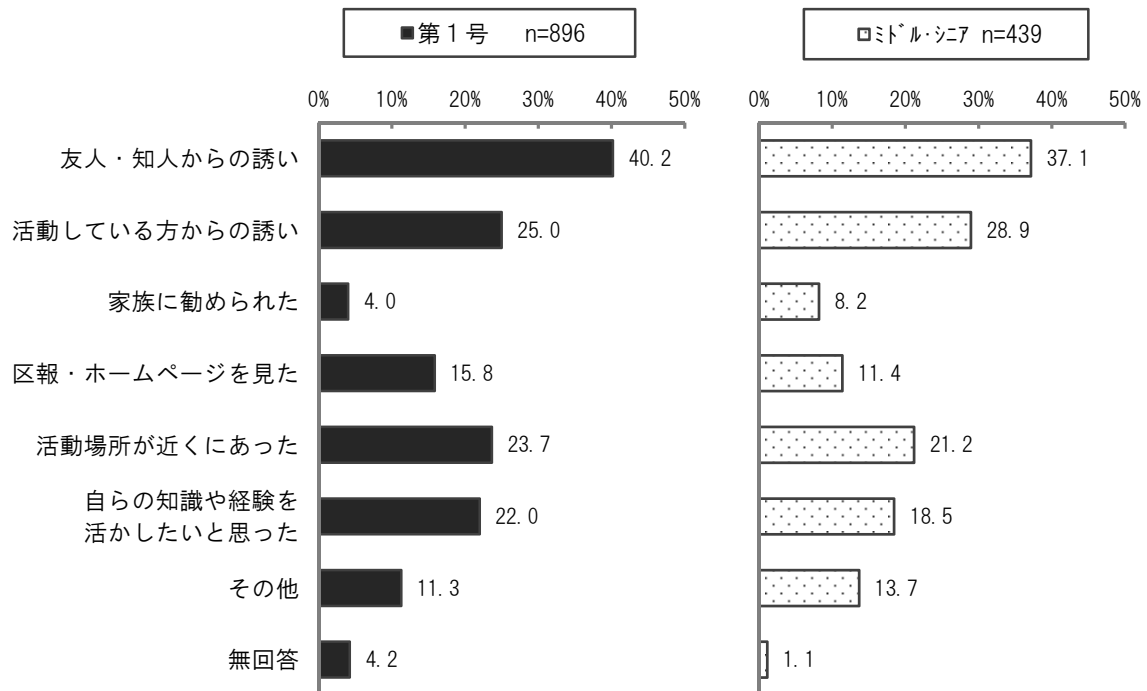
※「参加している」
=100% - 「参加していない」 - 「無回答」

②-2 活動を始めたきっかけ〔第1号、ミドル・シニア〕

〔第1号〕の活動を始めたきっかけは、「友人・知人からの誘い」が40.2%で最も高く、次いで「活動している方からの誘い」が25.0%、「活動場所が近くにあった」が23.7%となっています。

〔ミドル・シニア〕の活動を始めたきっかけは、「友人・知人からの誘い」が37.1%で最も高く、次いで「活動している方からの誘い」が28.9%、「活動場所が近くにあった」が21.2%となっています。

▼活動を始めたきっかけ（複数回答）

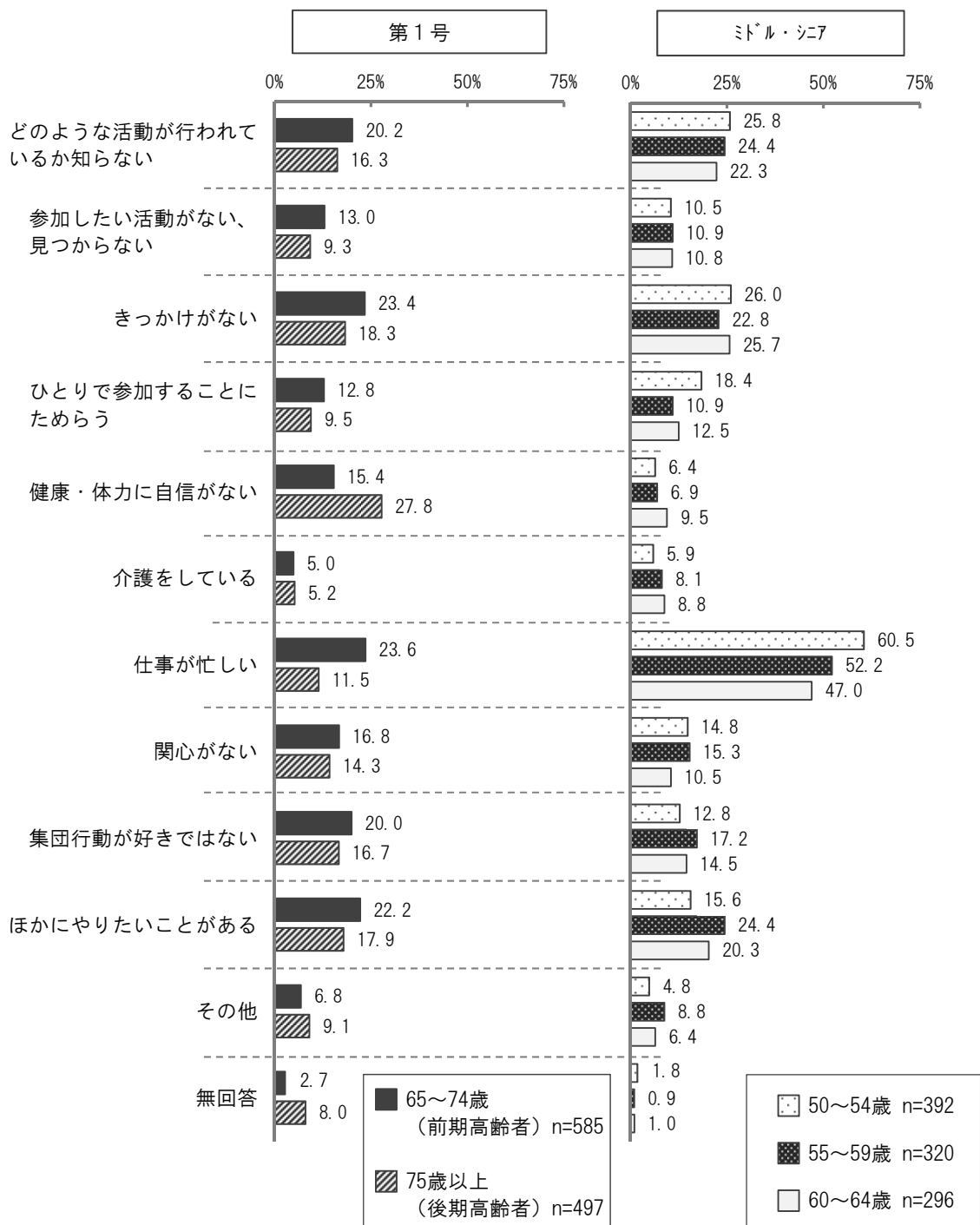


③現在活動団体やグループに参加していない理由〔第1号、ミドル・シニア〕

活動団体等に参加していない理由は、〔第1号〕の「65～74歳（前期高齢者）」は、「仕事が忙しい」が23.6%で最も高く、次いで「きっかけがない」が23.4%、「ほかにやりたいことがある」が22.2%となっています。「75歳以上（後期高齢者）」は、「健康・体力に自信がない」が27.8%で最も高く、次いで「きっかけがない」が18.3%、「ほかにやりたいことがある」が17.9%となっています。

〔ミドル・シニア〕はいずれの年齢区分も「仕事が忙しい」が最も高く、「50～54歳」が60.5%、「55～59歳」が52.2%、「60～64歳」が47.0%となっています。「50～54歳」、「60～64歳」は、次いで「きっかけがない」が「50～54歳」が26.0%、「60～64歳」が25.7%となっています。「55～59歳」は、次いで「どのような活動が行われているか知らない」、「ほかにやりたいことがある」がともに24.4%となっています。

▼活動団体等に参加していない理由（複数回答）



(9) 災害について

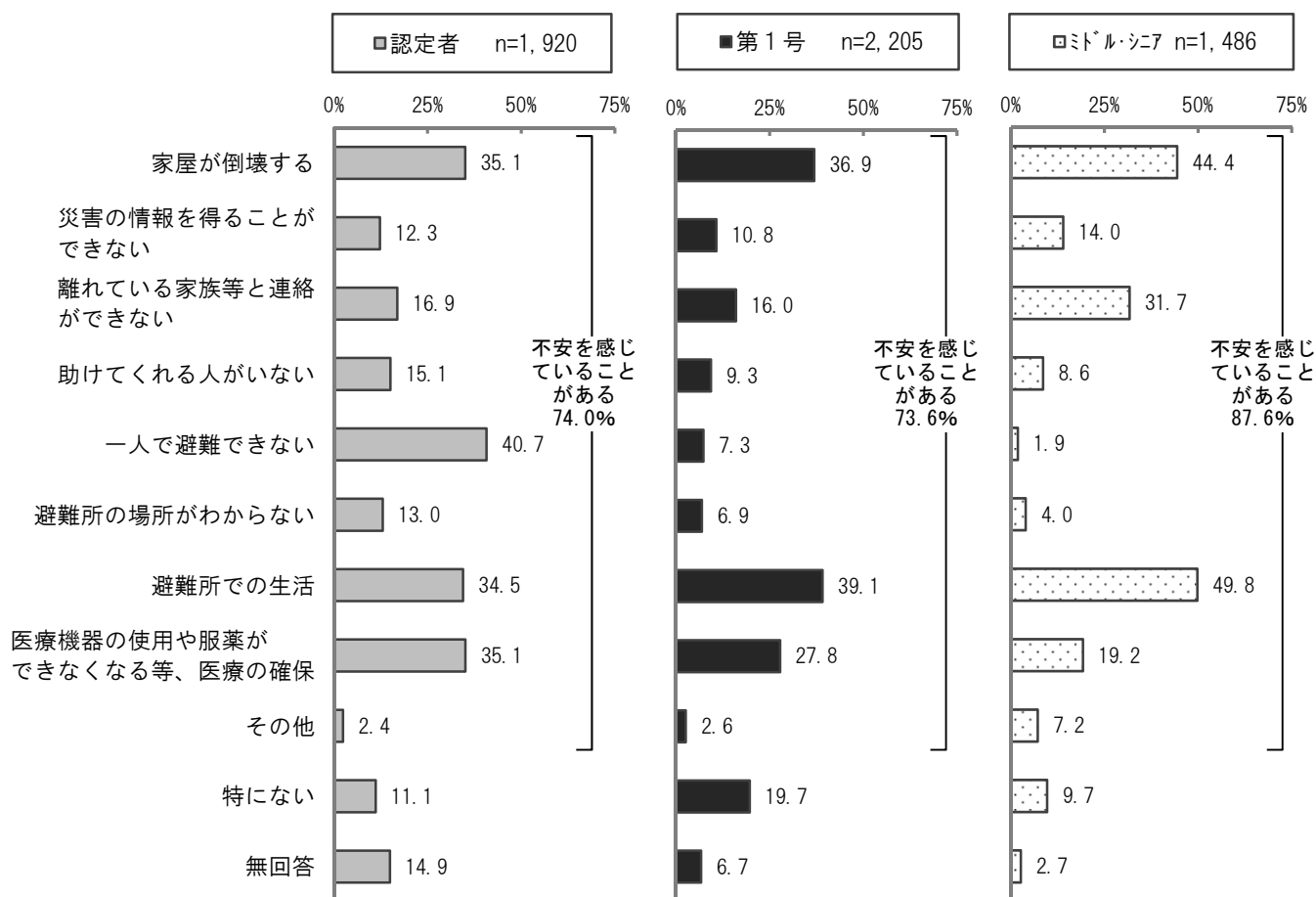
①災害に関して不安に感じていること〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

災害に関して不安に感じていることがある割合は、〔ミドル・シニア〕が87.6%で最も高く、次いで〔認定者〕が74.0%、〔第1号〕が73.6%となっています。

〔認定者〕は、「一人で避難できない」が40.7%で最も高く、次いで「家屋が倒壊する」「医療機器の使用や服薬ができなくなる等、医療の確保」がともに35.1%、「避難所での生活」が34.5%となっています。

〔第1号〕、〔ミドル・シニア〕は、「避難所での生活」が最も高く、〔第1号〕が39.1%、〔ミドル・シニア〕が49.8%となっています。次いで「家屋が倒壊する」が〔第1号〕が36.9%、〔ミドル・シニア〕が44.4%となっています。3番目に高いのは、〔第1号〕は、「医療機器の使用や服薬ができなくなる等、医療の確保」が27.8%、〔ミドル・シニア〕は、「離れている家族等と連絡ができない」が31.7%となっています。

▼災害に関して不安に感じていること（複数回答）



※「不安を感じていることがある」=100%－「特になし」－「無回答」

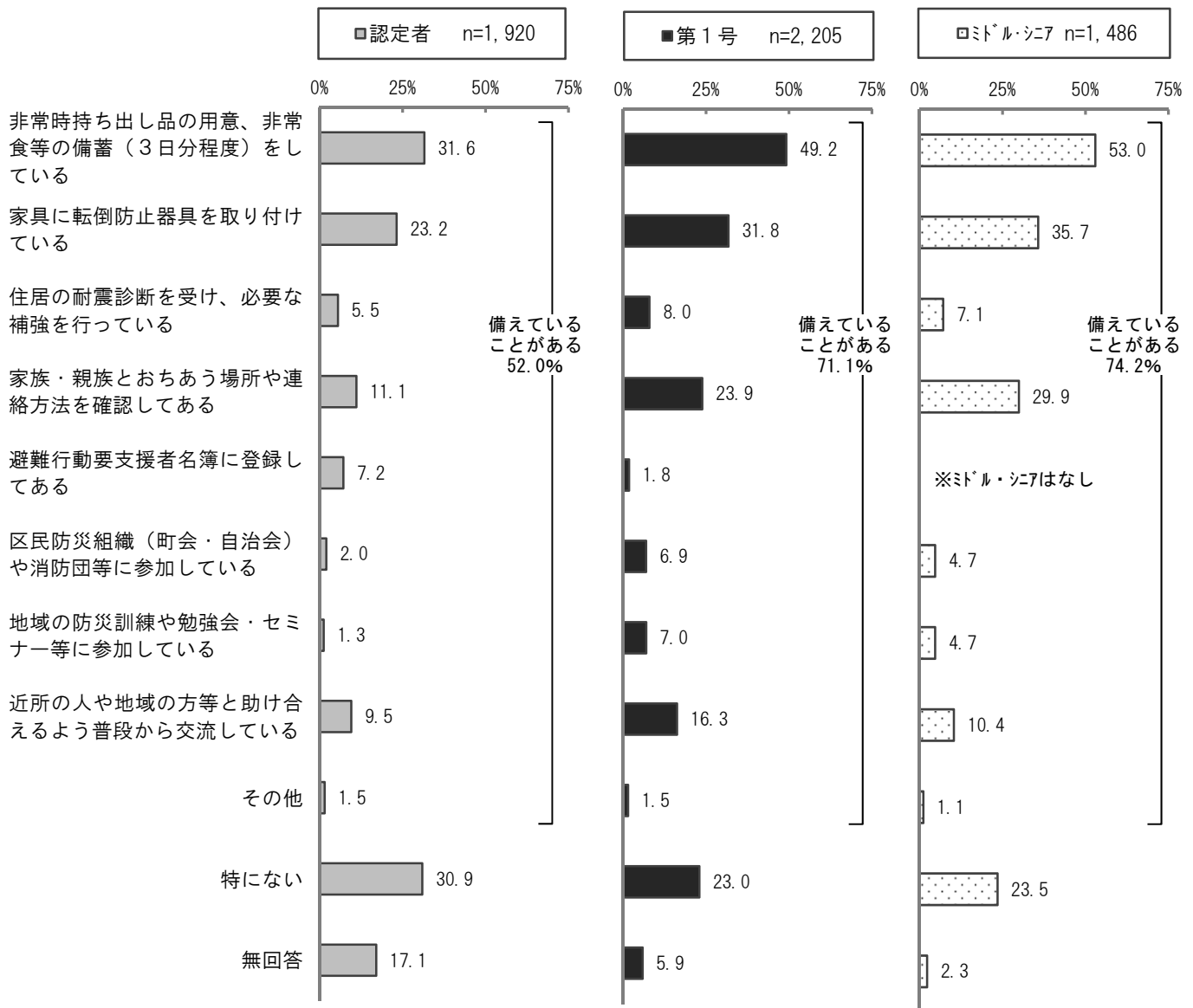
②災害発生時に備えて行っていること〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

災害発生時に備えて行っていることがある割合は、〔ミドル・シニア〕が74.2%で最も高く、次いで〔第1号〕が71.1%、〔認定者〕が52.0%となっており、〔認定者〕は〔第1号〕、〔ミドル・シニア〕より約20ポイント低くなっています。

いずれの対象者も「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄をしている」が最も高く、〔認定者〕が31.6%、〔第1号〕が49.2%、〔ミドル・シニア〕が53.0%となっており、次いで「家具に転倒防止器具を取り付けている」が高く、〔認定者〕が23.2%、〔第1号〕が31.8%、〔ミドル・シニア〕が35.7%となっています。

一方、「特にない」の割合は、〔認定者〕は30%を超え、〔第1号〕、〔ミドル・シニア〕は20%を超えています。

▼災害発生時に備えて行っていること（複数回答）



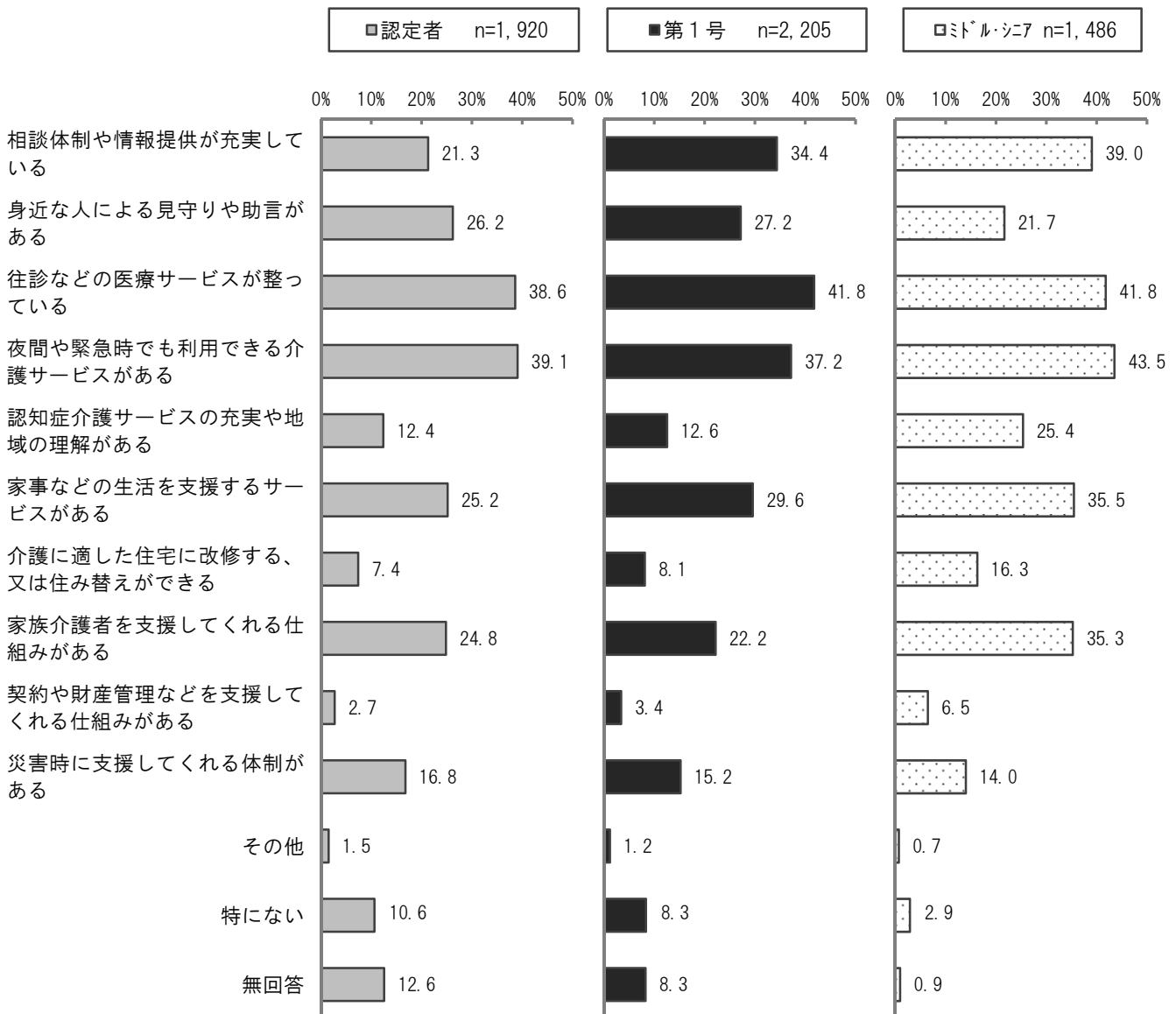
※「備えていることがある」=100%－「特にない」－「無回答」

(10) 介護等について

①地域で暮らし続けるために必要なこと〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

住み慣れた地域で暮らし続けるために必要だと考えることは、いずれの対象者も「往診などの医療サービスが整っている」、「夜間や緊急時でも利用できる介護サービスがある」が上位2項目となっています。3番目に高いのは、〔認定者〕は「身近な人による見守りや助言がある」が26.2%となっています。〔第1号〕、〔ミドル・シニア〕は、「相談体制や情報提供が充実している」で、〔第1号〕が34.4%、〔ミドル・シニア〕が39.0%となっています。また、〔ミドル・シニア〕は、「家族介護者を支援してくれる仕組みがある」、「認知症介護サービスの充実や地域の理解がある」が他の対象者より10ポイント以上高くなっています。

▼地域で暮らし続けるために必要なこと（3つ以内複数回答）



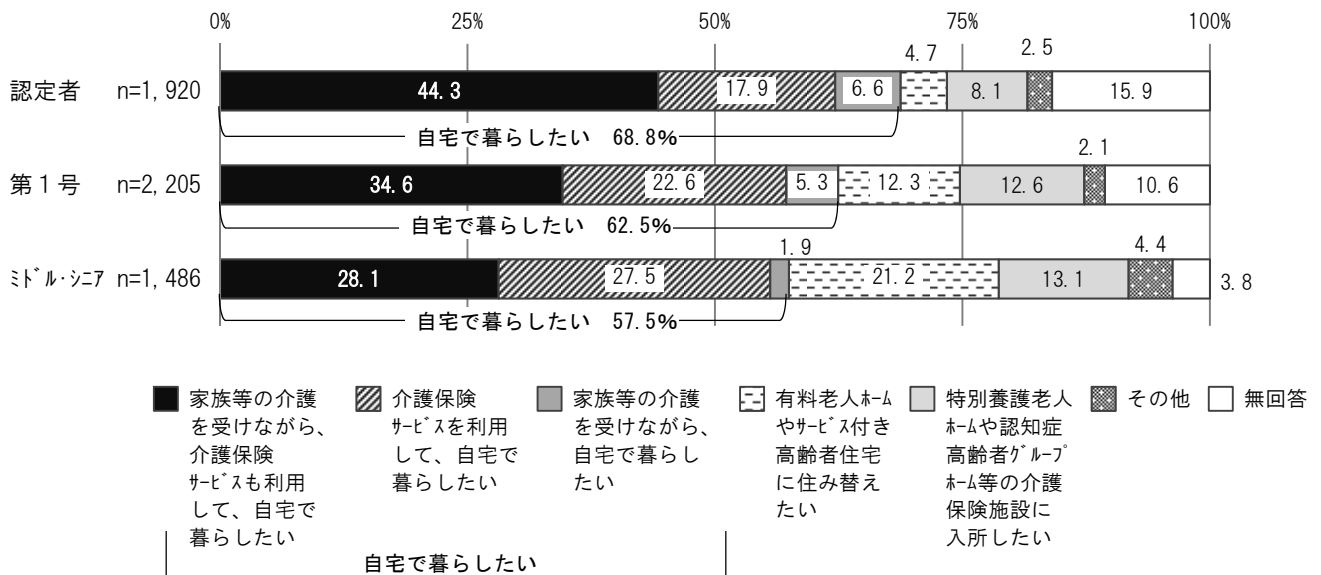
②今後希望する暮らし方〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

今後希望する暮らし方は、「自宅で暮らしたい」割合は〔認定者〕が68.8%で最も高く、次いで〔第1号〕が62.5%、〔ミドル・シニア〕が57.5%となっています。

いずれの対象者も「家族等の介護を受けながら、介護保険サービスも利用して、自宅で暮らしたい」が最も高く、〔認定者〕が44.3%、〔第1号〕が34.6%、〔ミドル・シニア〕が28.1%となっており、次いで「介護保険サービスを利用して、自宅で暮らしたい」が高く、〔認定者〕が17.9%、〔第1号〕が22.6%、〔ミドル・シニア〕が27.5%となっています。

また、〔ミドル・シニア〕は、「有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅に住み替えたい」が21.2%となっており、他の対象者より高くなっています。

▼今後希望する暮らし方

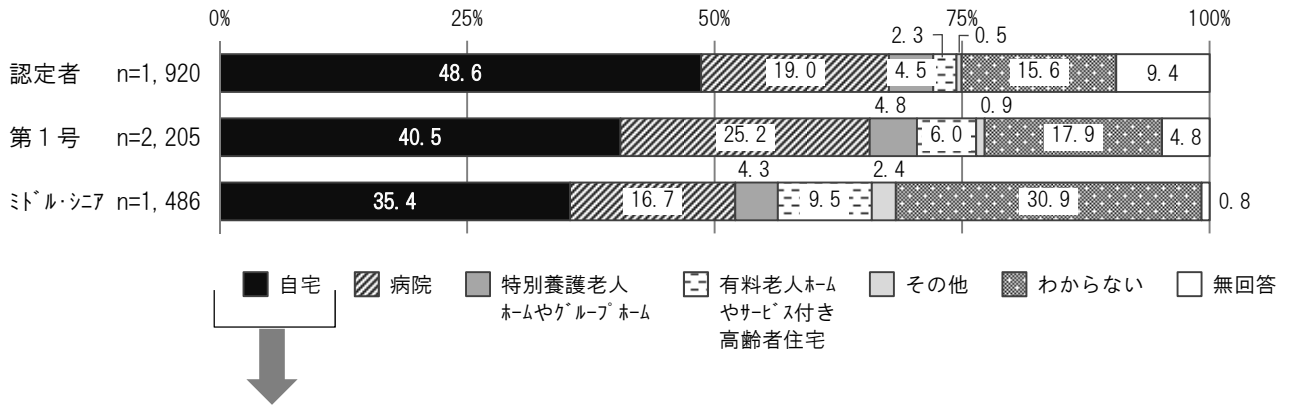


③-1 終末期を迎える場所の希望〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

終末期を迎える場所の希望は、いずれの対象者も「自宅」が最も高く、〔認定者〕が48.6%、〔第1号〕が40.5%、〔ミドル・シニア〕が35.4%となっています。次いで「病院」が高く、〔認定者〕が19.0%、〔第1号〕が25.2%、〔ミドル・シニア〕が16.7%となっています。

一方、〔ミドル・シニア〕は、「わからない」が30.9%で、他の対象者より高くなっています。

▼終末期をどこで迎えたいか



③-2 自宅で最期まで療養するために必要なこと〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

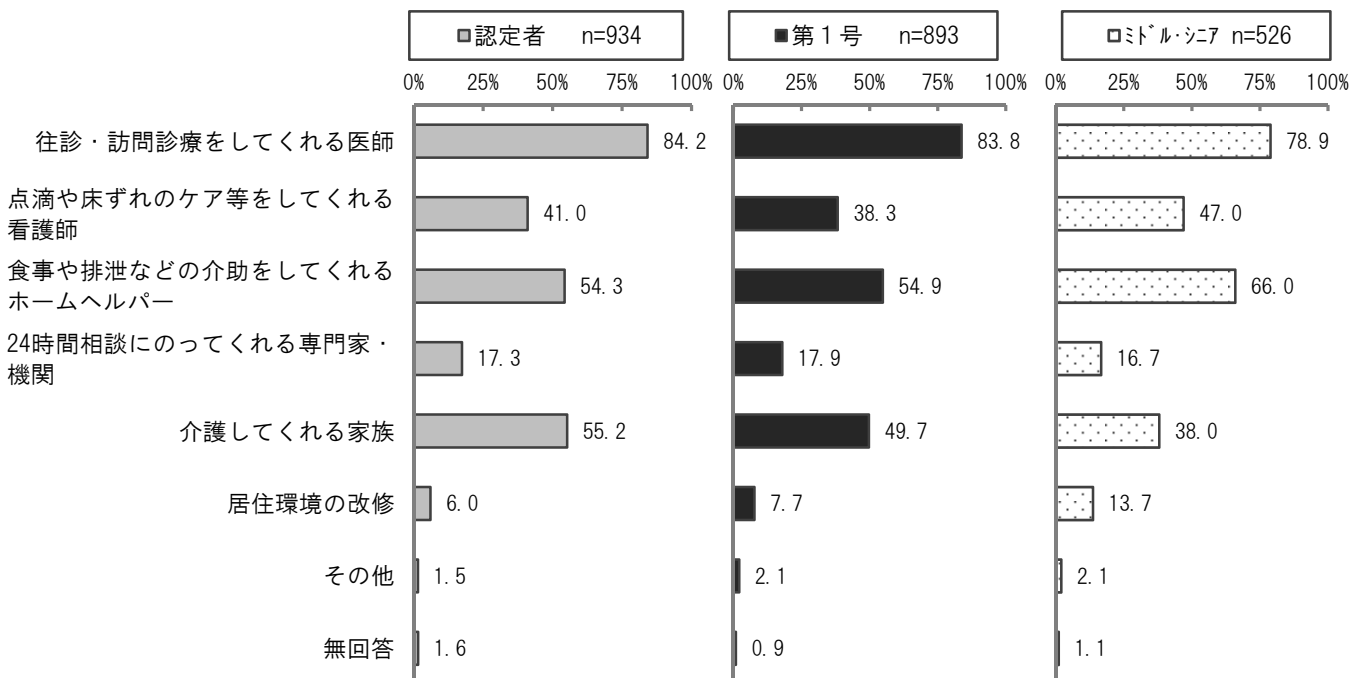
終末期を「自宅」で迎えたいと思う人が、自宅で最期まで療養するために必要なこととは、いずれの対象者も「往診・訪問診療をしてくれる医師」が最も高く、〔認定者〕が84.2%、〔第1号〕が83.8%、〔ミドル・シニア〕が78.9%となっています。

〔認定者〕は、次いで「介護してくれる家族」が55.2%、「食事や排泄などの介助をしてくれるホームヘルパー」が54.3%となっています。

〔第1号〕は、次いで「食事や排泄などの介助をしてくれるホームヘルパー」が54.9%、「介護してくれる家族」が49.7%となっています。

〔ミドル・シニア〕は、次いで「食事や排泄などの介助をしてくれるホームヘルパー」が66.0%、「点滴や床ずれのケア等をしてくれる看護師」が47.0%となっています。

▼自宅で最期まで療養するために必要なこと（3つ以内複数回答）



④高齢者施策、介護保険事業について、区に力を入れてほしいこと

〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

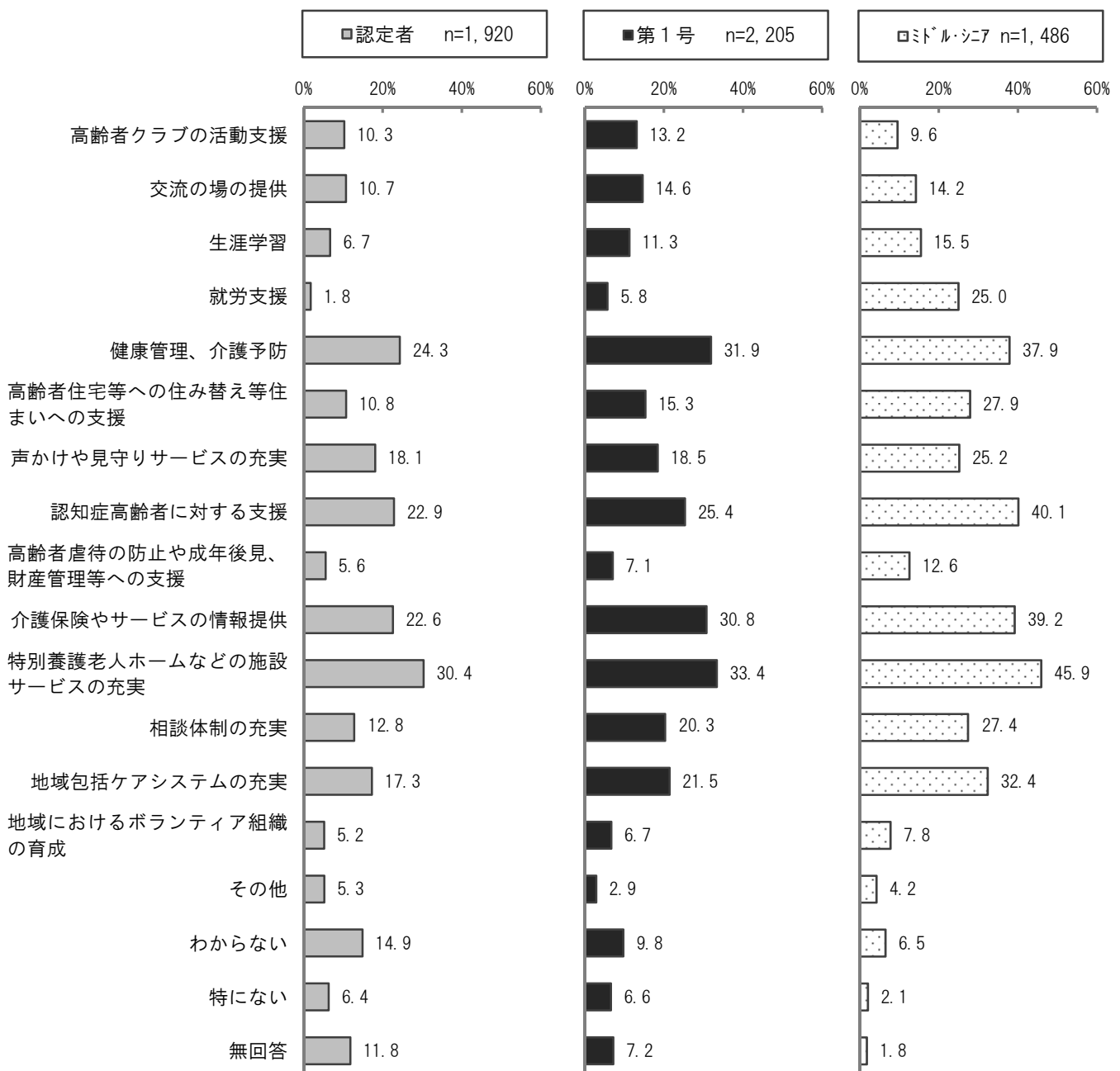
高齢者施策、介護保険事業について、区に力を入れてほしいことは、いずれの対象者も「特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実」が最も高く、〔認定者〕が30.4%、〔第1号〕が33.4%、〔ミドル・シニア〕が45.9%となっています。

〔認定者〕は、次いで「健康管理、介護予防」が24.3%、「認知症高齢者に対する支援」が22.9%となっています。

〔第1号〕は、次いで「健康管理、介護予防」が31.9%、「介護保険やサービスの情報提供」が30.8%となっています。

〔ミドル・シニア〕は、次いで「認知症高齢者に対する支援」が40.1%、「介護保険やサービスの情報提供」が39.2%となっています。「健康管理、介護予防」、「地域包括ケアシステムの充実」も30%を超えています。

▼高齢者施策、介護保険事業について、区に力を入れてほしいこと（複数回答）



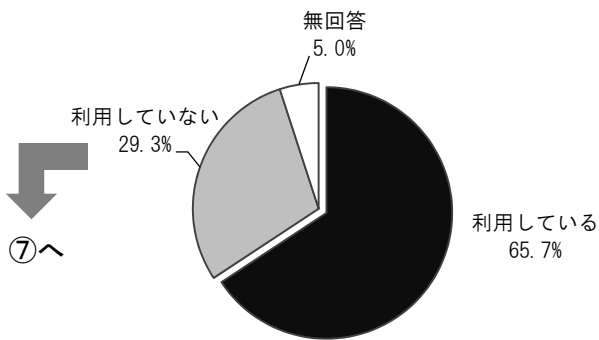
⑤介護保険サービスの利用状況と介護保険料のあり方〔認定者〕

〔認定者〕の介護保険サービスの利用状況は、「利用している」が65.7%、「利用していない」が29.3%となっています。

「利用している」人（以下「〔認定者（サービス利用者）〕」）の介護保険サービスと介護保険料のあり方についての考えは、「保険料も介護保険サービスも今ぐらいが妥当である」が42.8%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が23.0%となっています。

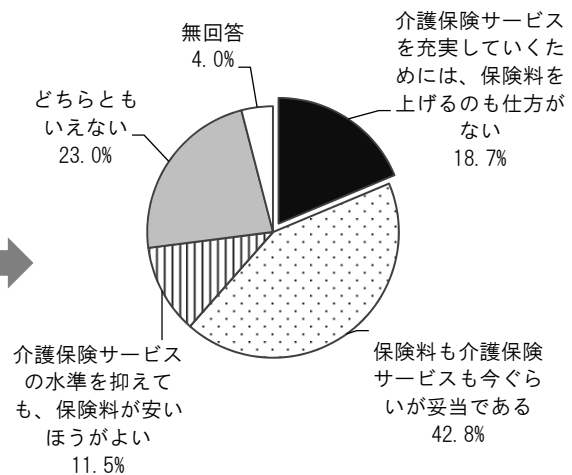
▼介護保険サービスの利用状況

認定者 n=1,920



▼介護保険料のあり方

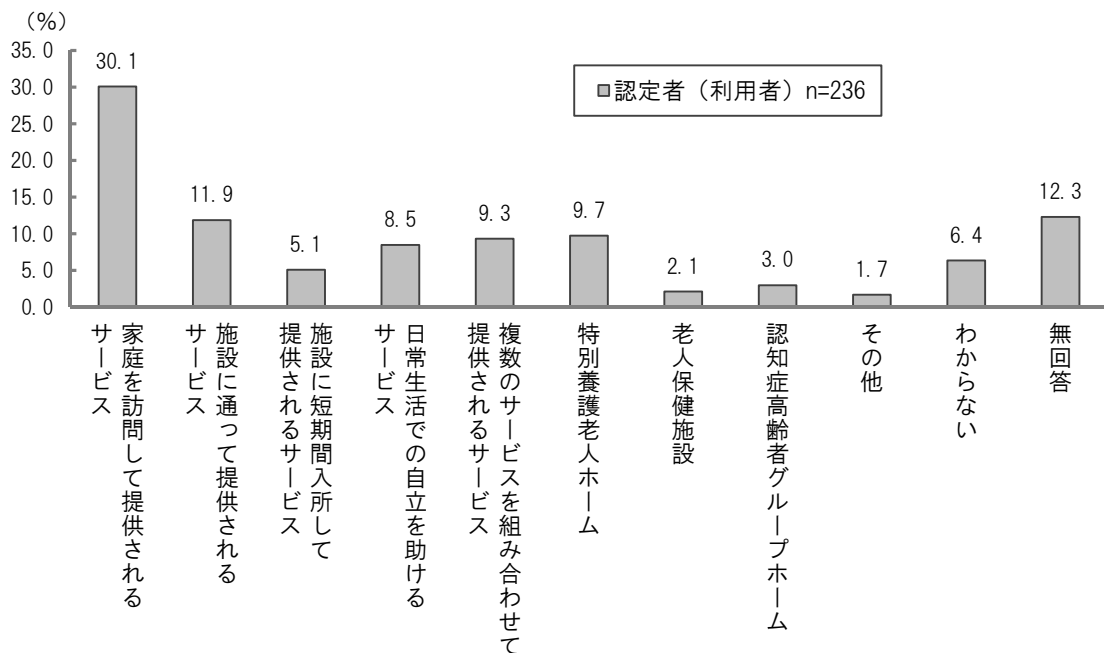
認定者（利用者） n=1,262



⑥介護保険料が上がる場合に充実してほしいサービス〔認定者（サービス利用者）〕

〔認定者（サービス利用者）〕のうち、「介護保険サービスを充実していくためには、保険料を上げるのも仕方がない」と答えた人で、介護保険料が上がる場合に充実してほしいサービスは、「家庭を訪問して提供されるサービス」が30.1%で最も高く、次いで「施設に通って提供されるサービス」が11.9%、「特別養護老人ホーム」が9.7%となっています。

▼介護保険料が上がる場合に充実してほしいサービス



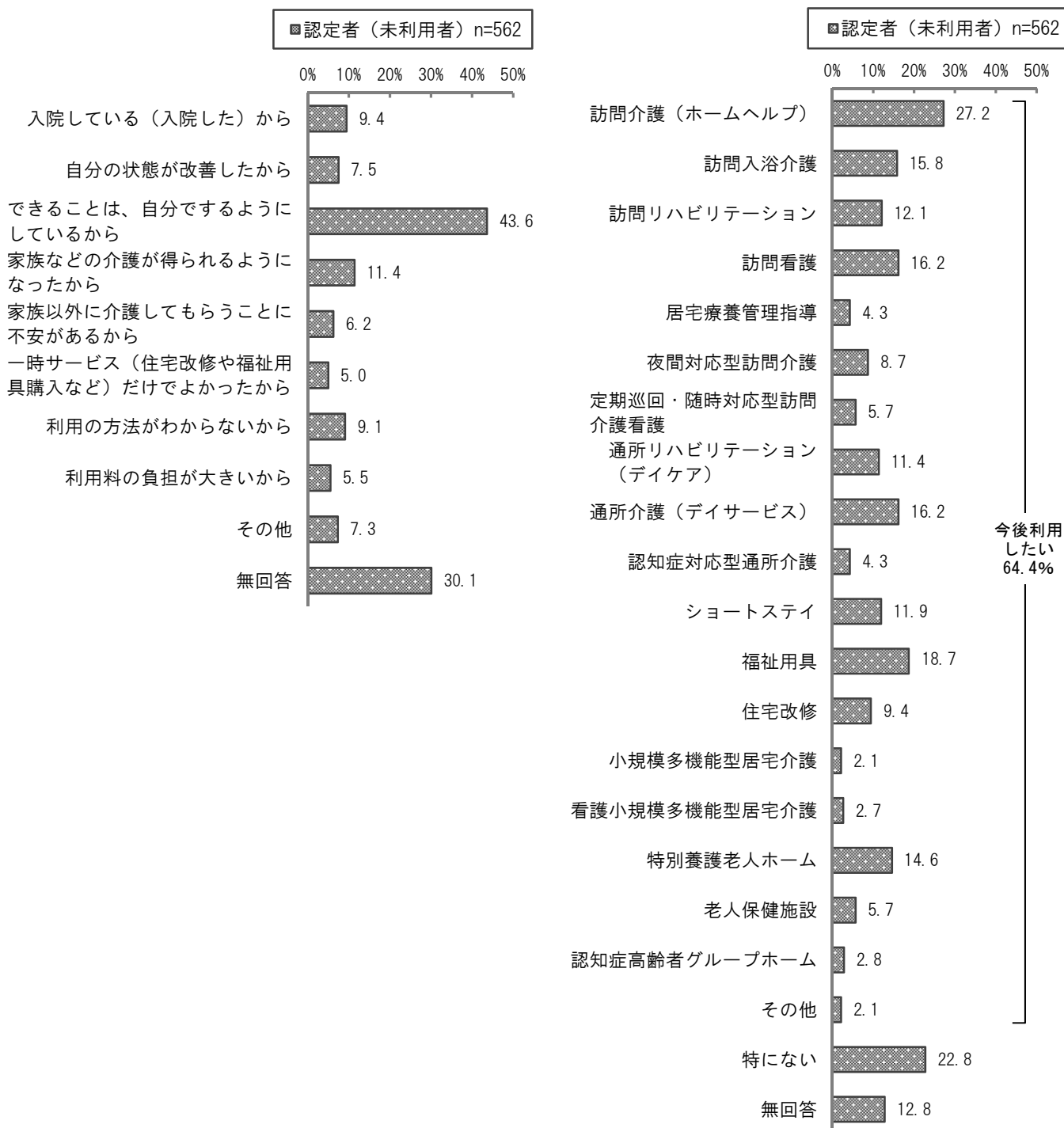
⑦介護保険サービスを利用していない理由と今後利用したい介護保険サービス 〔認定者（サービス未利用者）〕

「利用していない」人（以下「〔認定者（サービス未利用者）〕」）の介護保険サービスを利用していない理由は、「できることは、自分でするようにしているから」が43.6%で最も高く、次いで「家族などの介護が得られるようになったから」が11.4%となっています。

今後利用したい介護保険サービスの割合は64.4%で、「訪問介護」が27.2%で最も高く、次いで「福祉用具」が18.7%、「訪問看護」、「通所介護」がともに16.2%となっています。

▼介護保険サービスを利用していない理由（複数回答）

▼今後利用したい介護保険サービス（複数回答）



※「今後利用したい」=100%－「特にない」－「無回答」

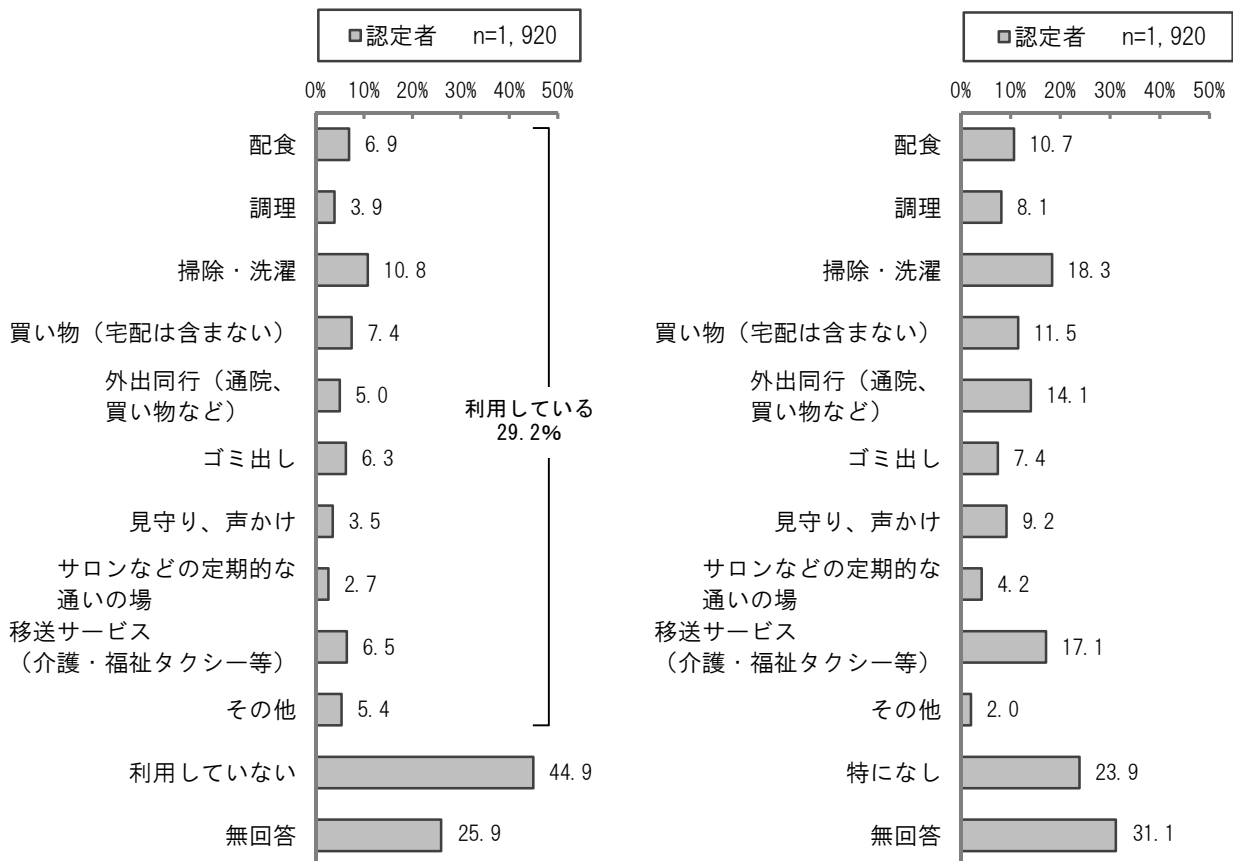
⑧介護保険サービス以外で利用している支援等と在宅生活継続に必要な支援等

〔認定者〕

〔認定者〕の介護保険サービス以外の支援・サービスを利用している割合は29.2%で、「掃除・洗濯」が10.8%で最も高く、次いで「買い物」が7.4%、「配食」が6.9%となっています。

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスは、「掃除・洗濯」が18.3%で最も高く、次いで「移送サービス」が17.1%、「外出同行」が14.1%となっています。

▼介護保険サービス以外で利用している支援等（複数回答）▼在宅生活継続に必要な支援等（3つ以内複数回答）



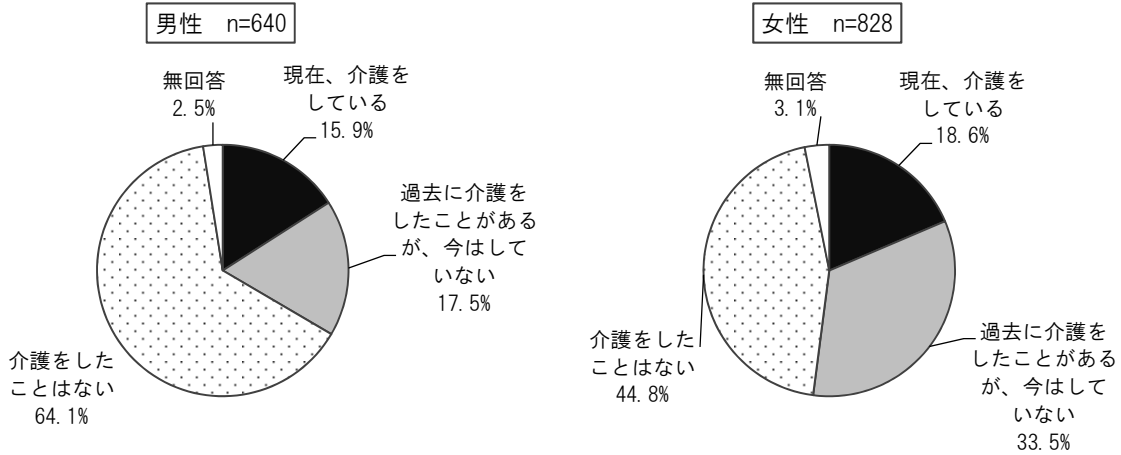
※「利用している」=100%－「利用していない」－「無回答」

(11) 介護者及び介護の状況について

① 介護経験の有無〔ミドル・シニア〕

〔ミドル・シニア〕の介護経験を性別にみると、「現在、介護をしている」割合は、「男性」が15.9%、「女性」が18.6%、「過去に介護をしたことがあるが、今はしていない」割合は、「男性」が17.5%、「女性」が33.5%となっており、介護経験のある割合は、「男性」が33.4%、「女性」が52.1%となっています。

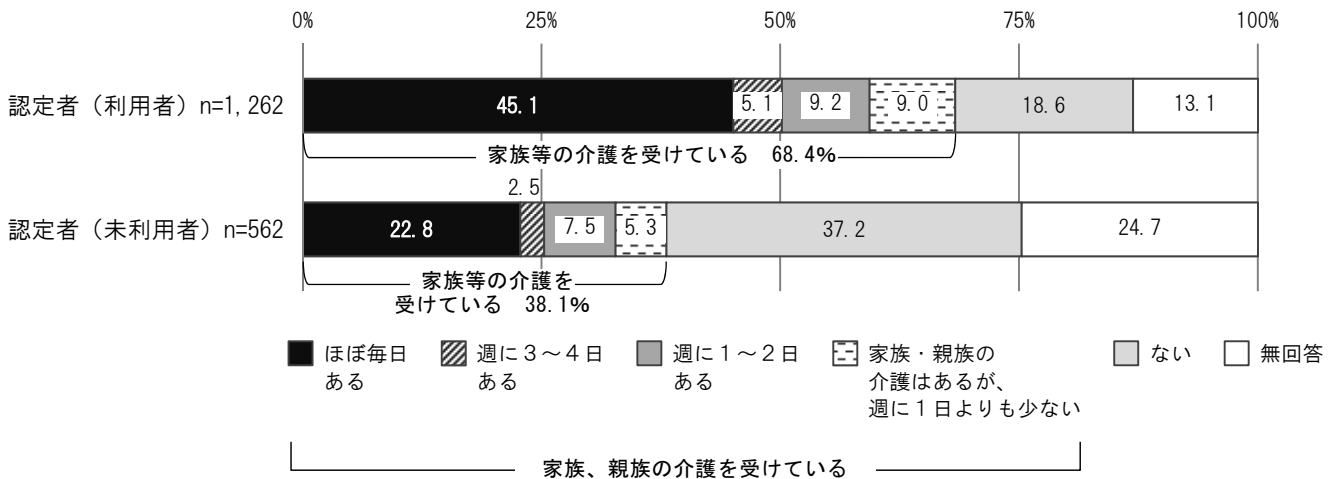
▼ 介護経験の有無/性別



② 家族又は親族の介護の有無〔認定者〕

〔認定者〕の家族又は親族の介護を受けている割合を介護保険サービスの利用状況別にみると、〔認定者（サービス利用者）〕が68.4%、〔認定者（サービス未利用者）〕が38.1%となっており、〔認定者（サービス利用者）〕は、「ほぼ毎日ある」が45.1%となっています。一方、家族又は親族の介護が「ない」割合は、〔認定者（サービス利用者）〕が18.6%であるのに比べて、〔認定者（サービス未利用者）〕が37.2%となっています。

▼ 家族又は親族の介護を受けているか/介護保険サービス利用状況別



③へ

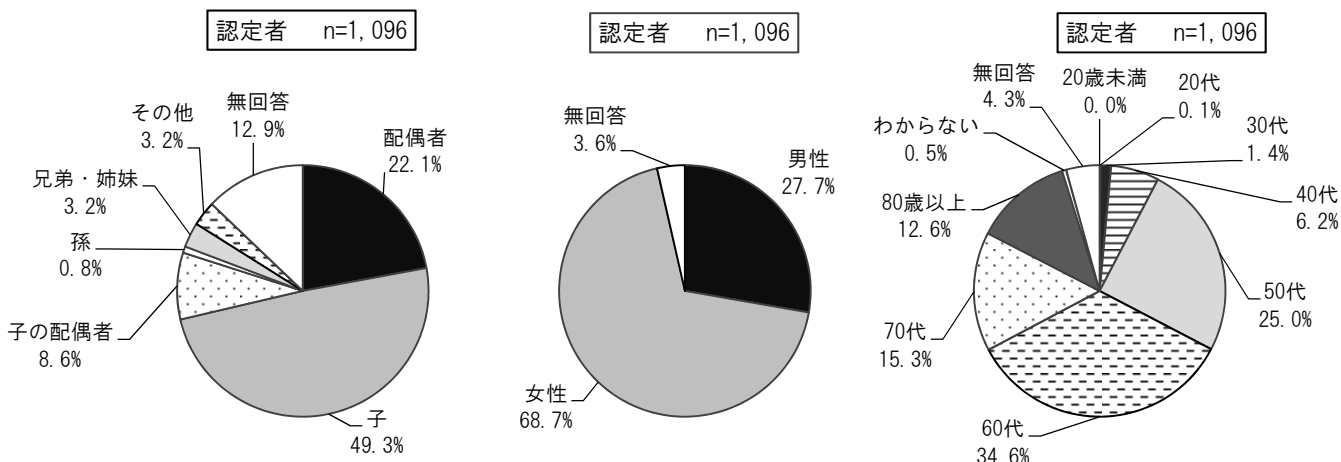
③ 主な介護者の属性〔認定者〕

〔認定者〕の主な介護者は、「子」が49.3%で最も高く、次いで「配偶者」が22.1%となっています。性別は、「女性」が68.7%、「男性」が27.7%となっています。年齢は、「60代」が34.6%で最も高く、次いで「50代」が25.0%、「70代」が15.3%となっています。

▼主な介護者

▼主な介護者の性別

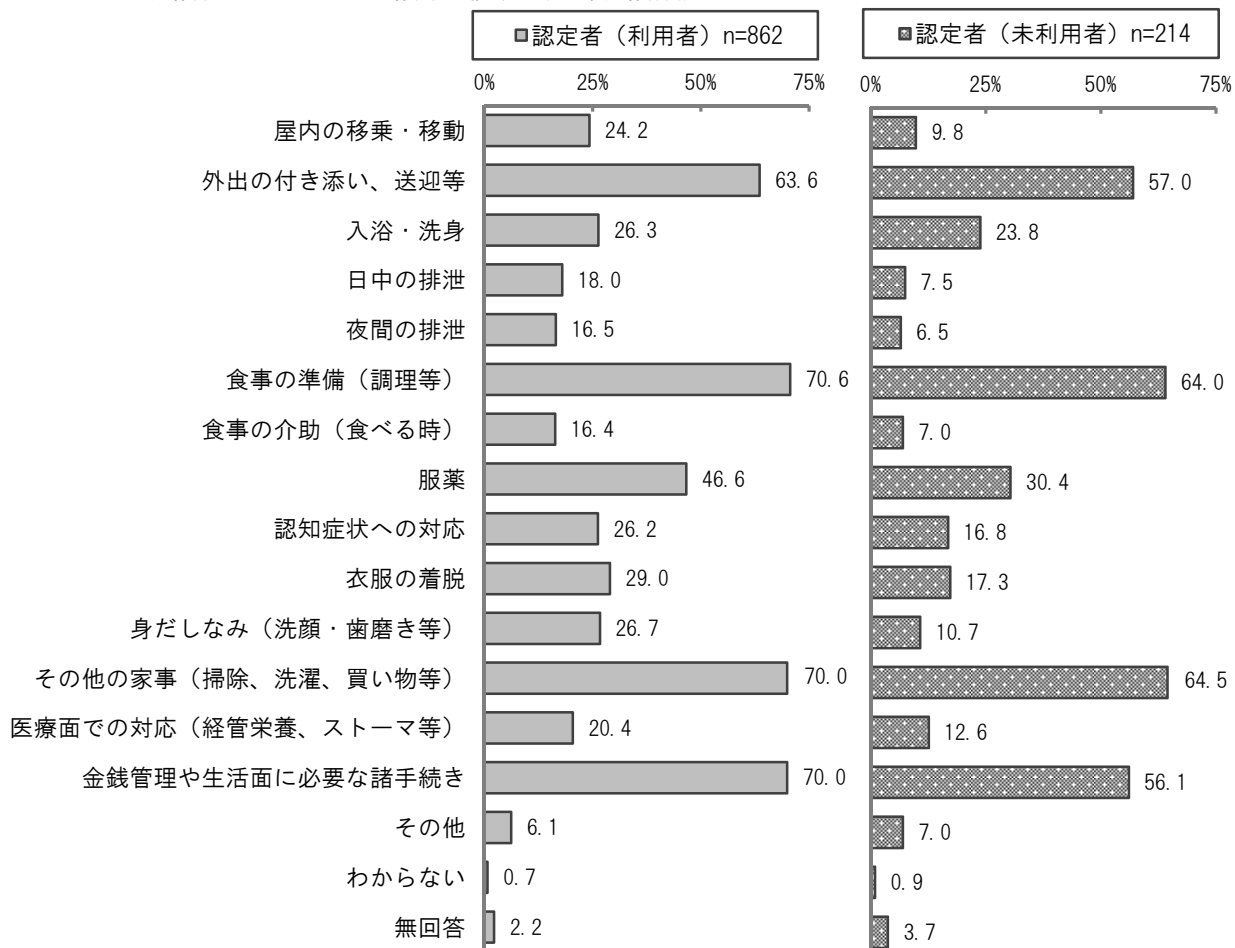
▼主な介護者の年齢



④ 主な介護者が行っている介護等〔認定者〕

〔認定者〕の主な介護者が行っている介護等を介護保険サービスの利用状況別にみると、いずれも「食事の準備」、「その他の家事」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「外出の付き添い、送迎等」が上位となっています。〔認定者（サービス利用者）〕の「屋内の移乗・移動」、「日中の排泄」、「服薬」、「衣服の着脱」、「身だしなみ」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の割合は、〔認定者（サービス未利用者）〕より10ポイントを超えて高くなっています。

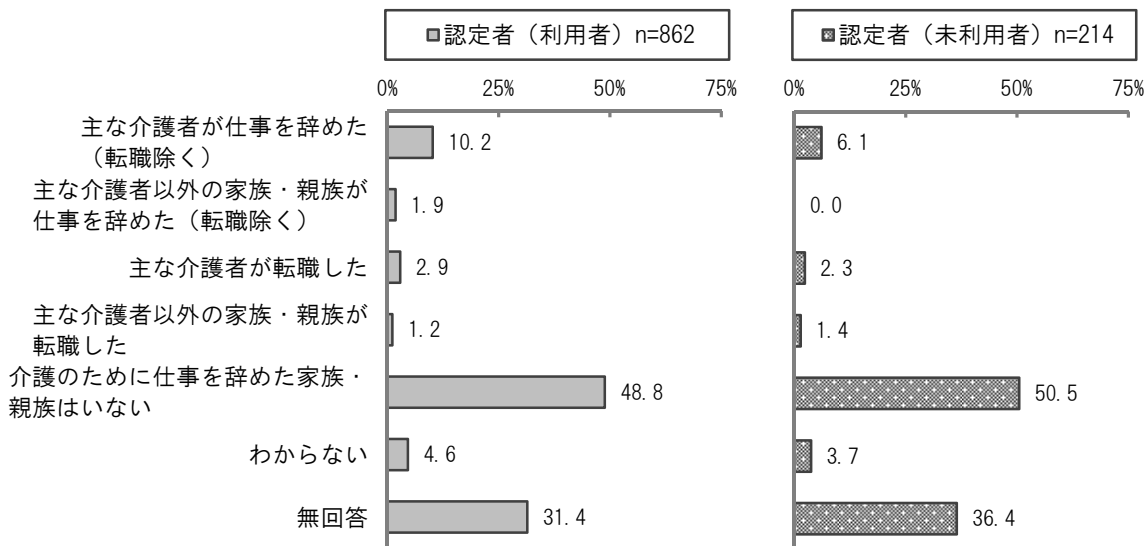
▼主な介護者が行っている介護等（複数回答）/介護保険サービス利用状況別



⑤ 家族や親族の中で介護のために過去に離職・転職した人の有無〔認定者〕

〔認定者〕の家族や親族の中で、介護のために過去に離職・転職した人の有無を介護保険サービスの利用状況別にみると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」は、「認定者（サービス利用者）」が48.8%、「認定者（サービス未利用者）」が50.5%となっています。

▼ 家族や親族の介護離職の有無（複数回答）/介護保険サービス利用状況別



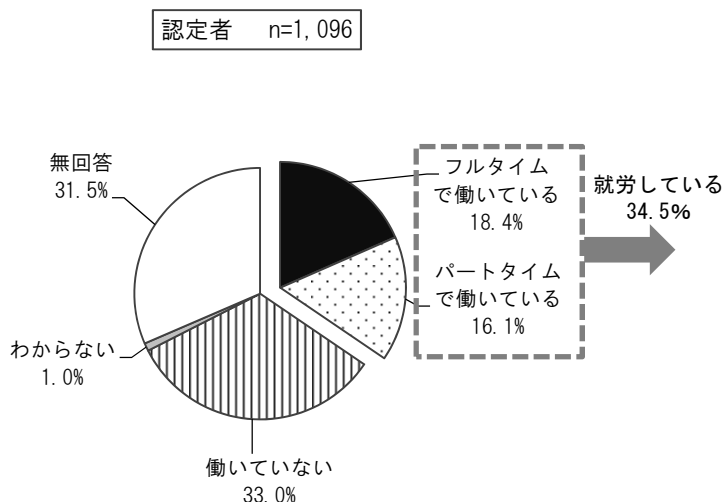
⑥ 主な介護者の就労状況〔認定者〕

〔認定者〕の主な介護者の就労状況は、「働いていない」が33.0%で最も高く、次いで「フルタイムで働いている」が18.4%、「パートタイムで働いている」が16.1%となっています。

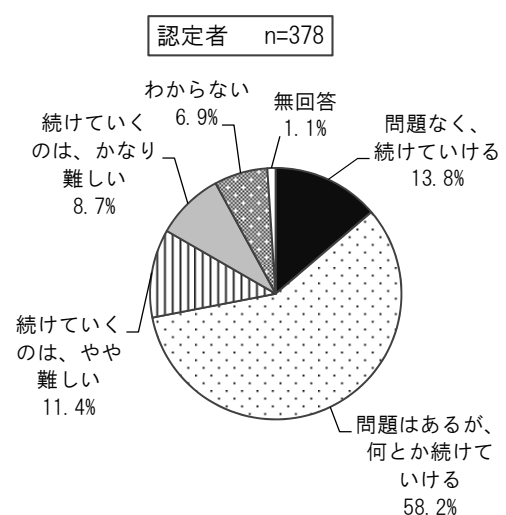
「フルタイムで働いている」、「パートタイムで働いている」介護者の就労継続可否意識は、「問題はあるが、何とか続けていける」が58.2%で最も高く、次いで「問題なく続けていける」が13.8%、「続けていくのは、やや難しい」が11.4%となっています。

「問題はあるが、何とか続けていける」、「問題なく続けていける」を合わせると72.0%となっています。

▼ 主な介護者の就労状況



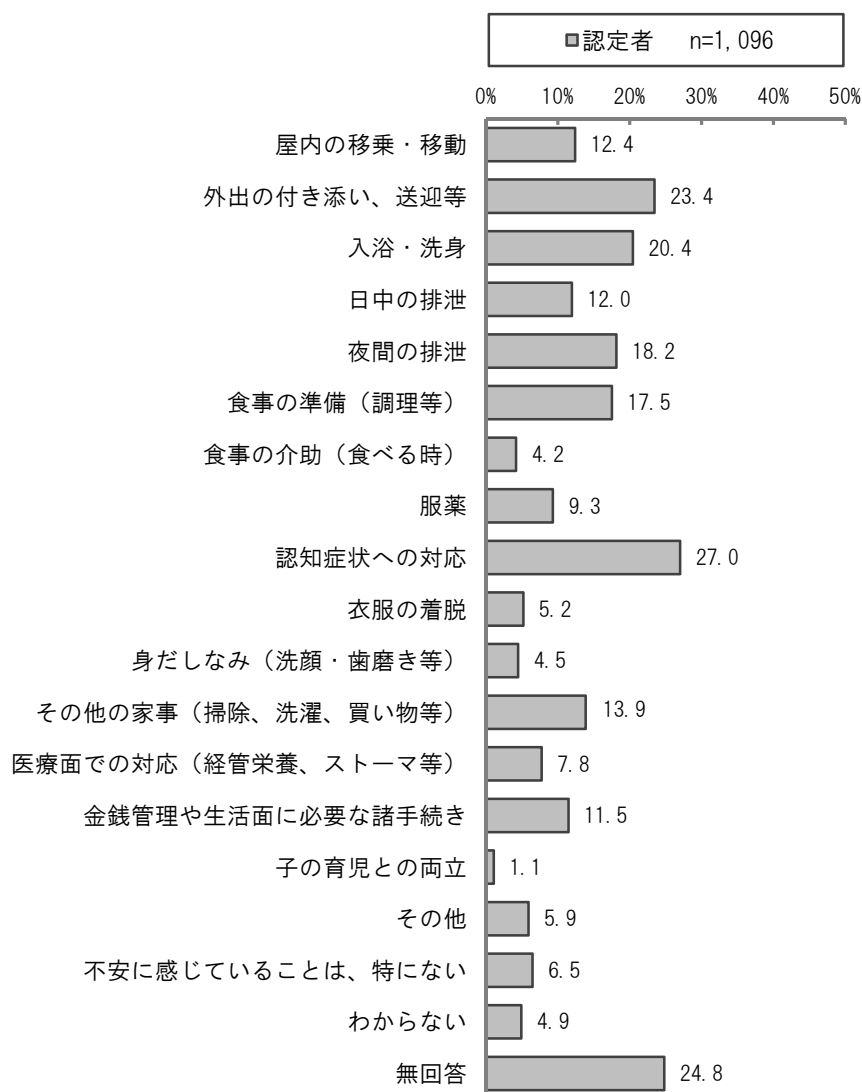
▼ 介護者の就労継続可否意識



⑦ 主な介護者が不安に感じる介護等〔認定者〕

〔認定者〕の主な介護者が不安に感じる介護等は、「認知症状への対応」が27.0%で最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が23.4%、「入浴・洗身」が20.4%となっています。

▼ 主な介護者が不安に感じる介護等（3つ以内複数回答）



8 調査結果（介護サービス事業所）

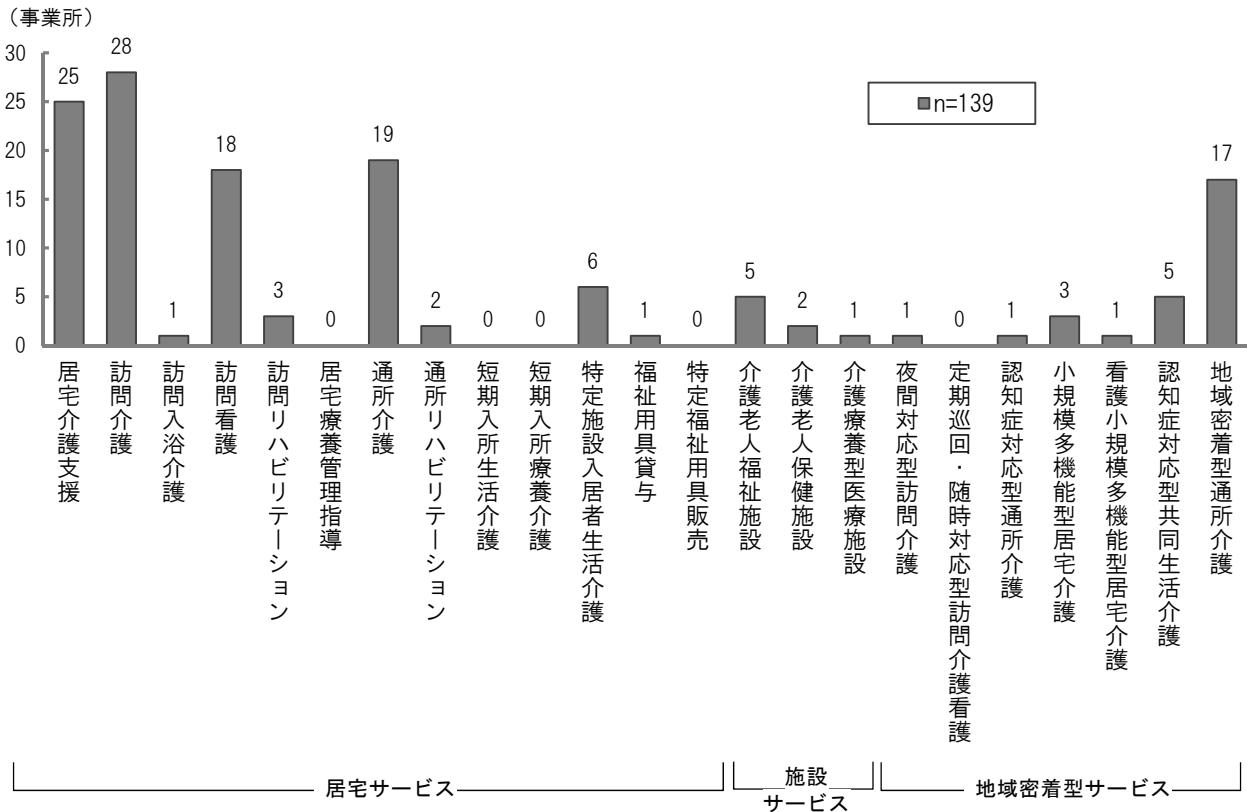
（1）事業所の概要

①主とする介護サービス

区内介護サービス事業所の主とする介護サービスは、「訪問介護」が28事業所で最も多く、次いで「居宅介護支援」が25事業所、「通所介護」が19事業所、「訪問看護」が18事業所となっています。

また、「地域密着型通所介護」が17事業所となっています。

▼主とする介護サービス

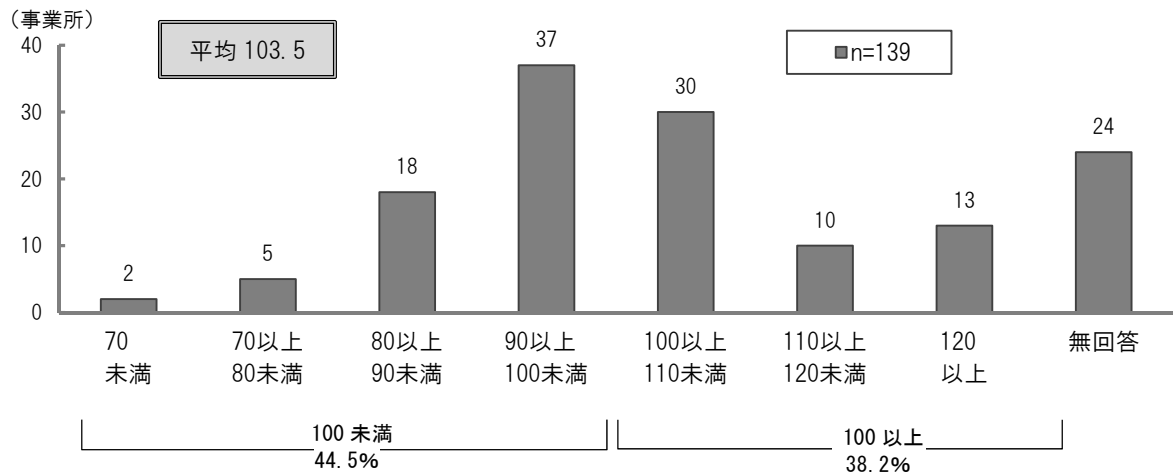


※「主とするサービス」とは、同一事業所内で実施しているサービスのうち最も事業収入が多い介護保険の指定介護サービスをいいます。

②平成 27 年度の事業収入指数

区内介護サービス事業所の、平成 26 年度の事業収入を 100 とした場合の平成 27 年度の事業収入指数は、平均 103.5 で、「90 以上 100 未満」が 37 事業所、「100 以上 110 未満」が 30 事業所となっています。

▼平成 27 年度の事業収入指数



③法人の種類

区内介護サービス事業所の法人の種類は、「民間企業」が 59.7% で最も高く、次いで「社会福祉法人」が 15.8%、「医療法人」が 7.2% となっています。

▼法人の種類



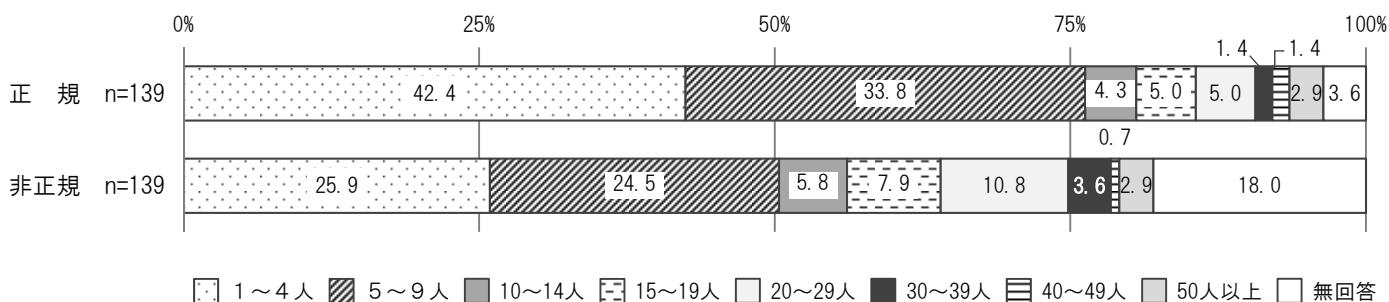
(2) 従業員について

①従業員数と雇用形態（平成28年3月31日現在）

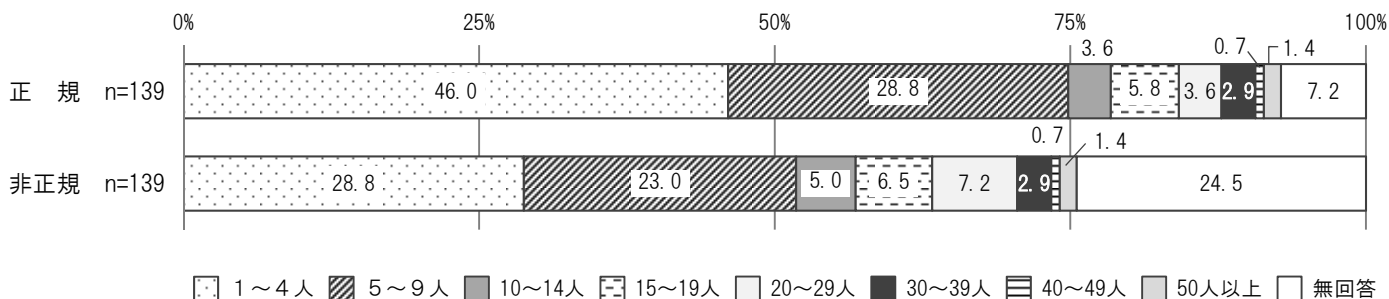
① 区内介護サービス事業所の全従業員のうち、「正規職員」は、「1～4人」が42.4%（59事業所）で最も高く、次いで「5～9人」が33.8%（47事業所）となっています。「非正規職員」は、「1～4人」が25.9%（36事業所）で最も高く、次いで「5～9人」が24.5%（34事業所）となっています。

② 介護保険の指定サービス事業の配置基準に基づき従事する従業員のうち、「正規職員」は、「1～4人」が46.0%（64事業所）で最も高く、次いで「5～9人」が28.8%（40事業所）となっています。「非正規職員」は、「1～4人」が28.8%（40事業所）で最も高く、次いで「5～9人」が23.0%（32事業所）となっています。

▼①全従業員数/正規・非正規別



▼②介護保険の指定サービス事業の配置基準に基づき従事する従業員数/正規・非正規別

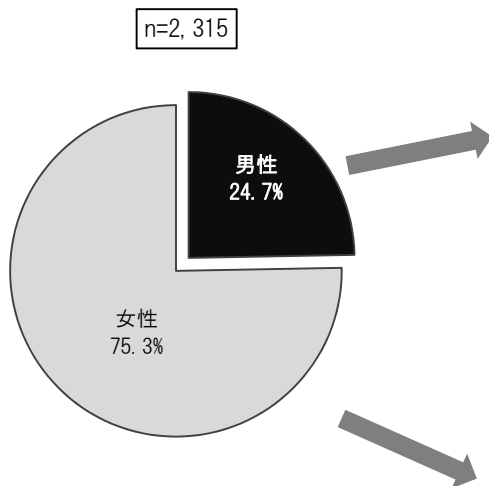


②介護保険サービスの職種別従業員数（平成28年3月31日現在）

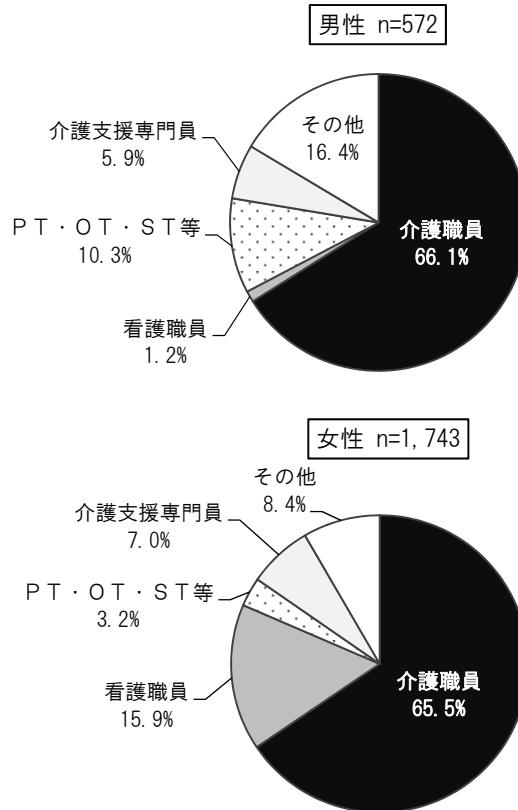
区内介護サービス事業所の介護保険サービス全従業員数の男女比は、「男性」が24.7%、「女性」が75.3%となっています。

職種別従業員数を性別にみると、「男性」は「介護職員」が66.1%、「PT・OT・ST等」が10.3%となっています。「女性」は「介護職員」が65.5%、「看護職員」が15.9%となっています。

▼介護保険サービス従業員数の男女比



▼職種別従業員数/性別

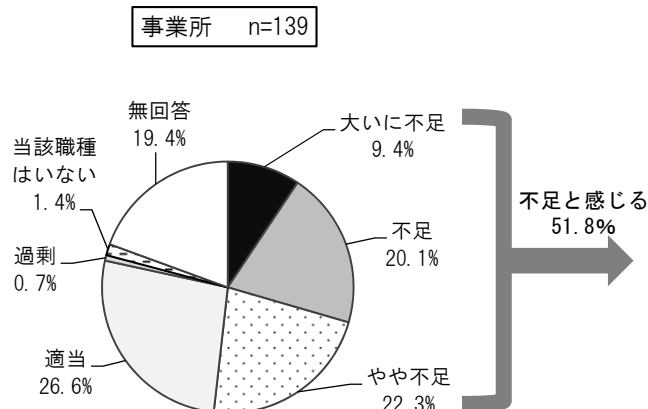


③従業員全体の過不足状況

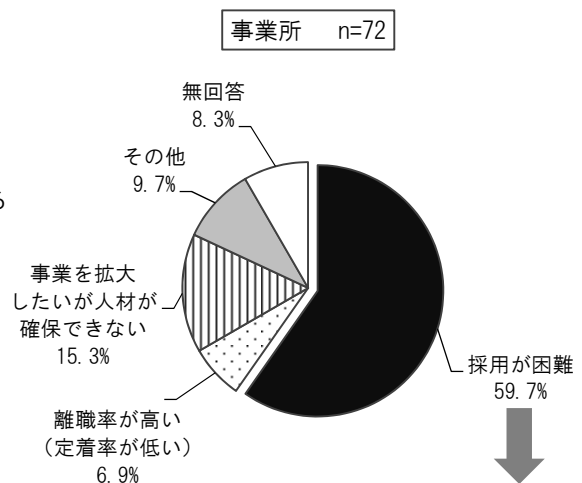
区内介護サービス事業所の従業員全体の過不足状況は、「適当」が26.6%となっていますが、「大いに不足」、「不足」、「やや不足」を合わせた割合が51.8%となっています。

区内介護サービス事業所の従業員が不足と感じる理由は、「採用が困難」が59.7%、「事業を拡大したいが人材が確保できない」が15.3%となっています。

▼従業員全体の過不足状況



▼不足と感じる理由

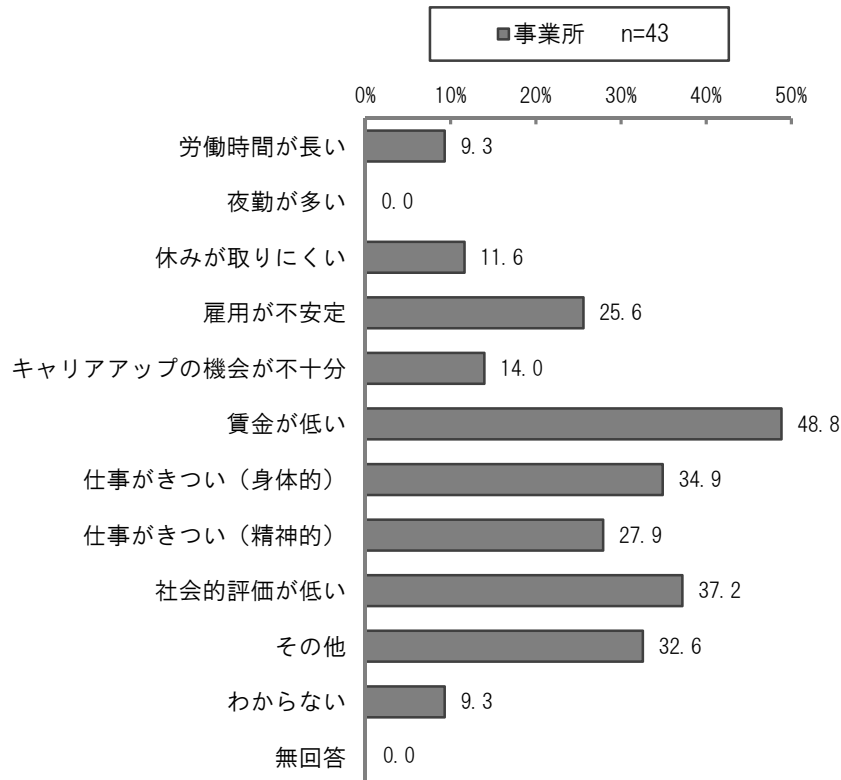


④へ

④採用が困難な原因

区内介護サービス事業所が従業員の「採用が困難」と考える原因は、「賃金が低い」が48.8%で最も高く、次いで「社会的評価が低い」が37.2%、「仕事がつい（身体的）」が34.9%となっています。

▼採用が困難な原因（3つ以内複数回答）

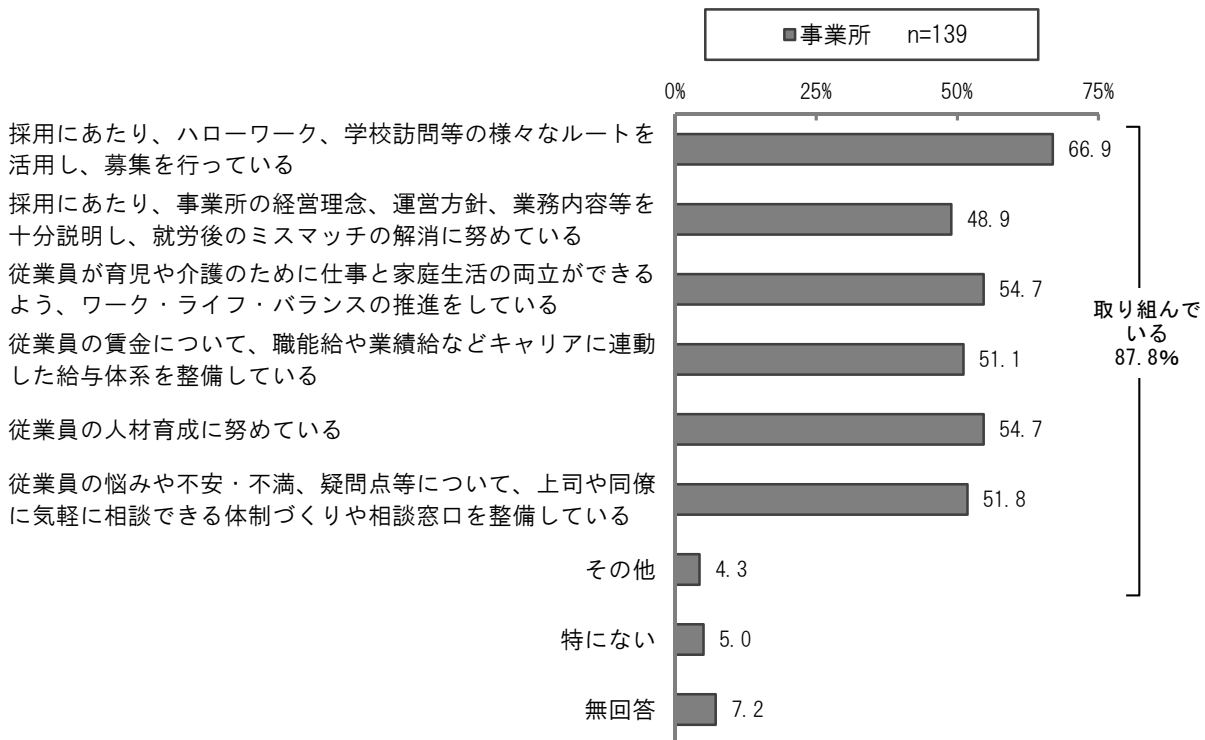


(3) 介護人材についての取組

①介護人材確保のための取組

区内介護サービス事業所が、介護人材確保のために取り組んでいる割合は87.8%で、「採用にあたり、ハローワーク、学校訪問等の様々なルートを活用し、募集を行っている」が66.9%で最も高く、次いで「従業員が育児や介護のために仕事と家庭生活の両立ができるよう、ワーク・ライフ・バランスの推進をしている」、「従業員の人材育成に努めている」がともに54.7%となっています。

▼介護人材確保のための取組（複数回答）

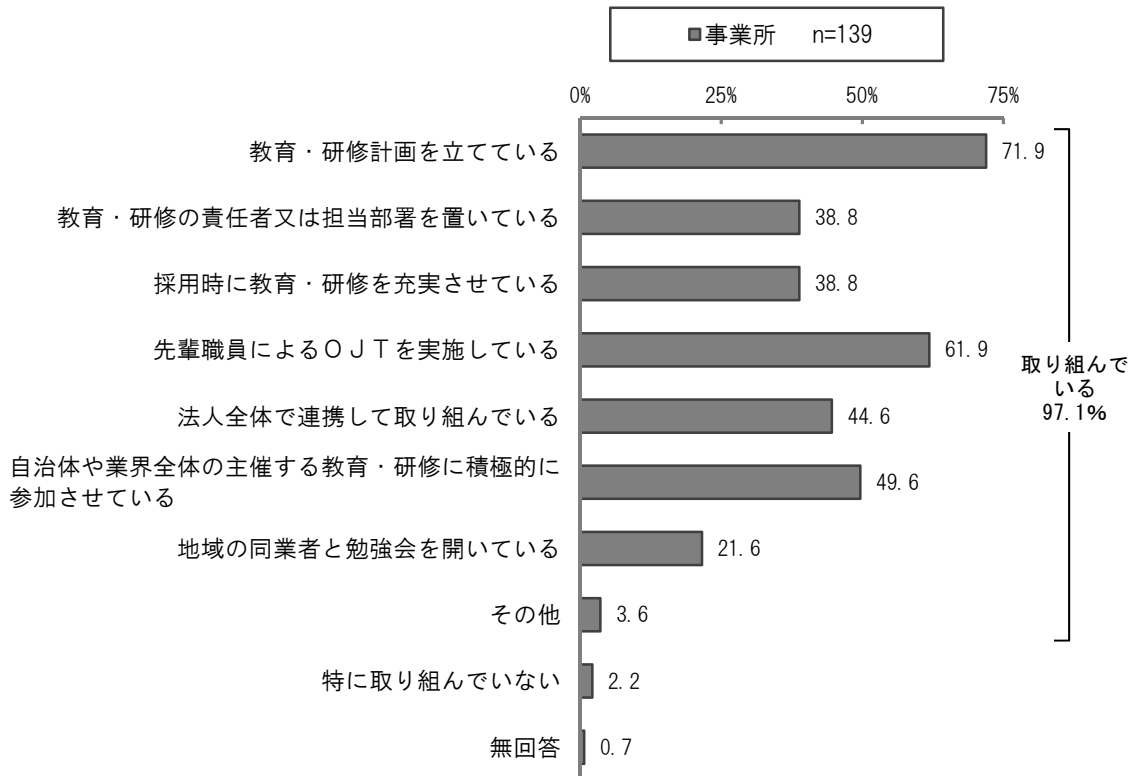


※「取り組んでいる」=100%－「特にない」－「無回答」

②人材育成のための取組状況

区内介護サービス事業所が、人材育成のために取り組んでいる割合は97.1%で、「教育・研修計画を立てている」が71.9%で最も高く、次いで「先輩職員によるOJTを実施している」が61.9%、「自治体や業界全体の主催する教育・研修に積極的に参加させている」が49.6%となっています。

▼人材育成のための取組（複数回答）

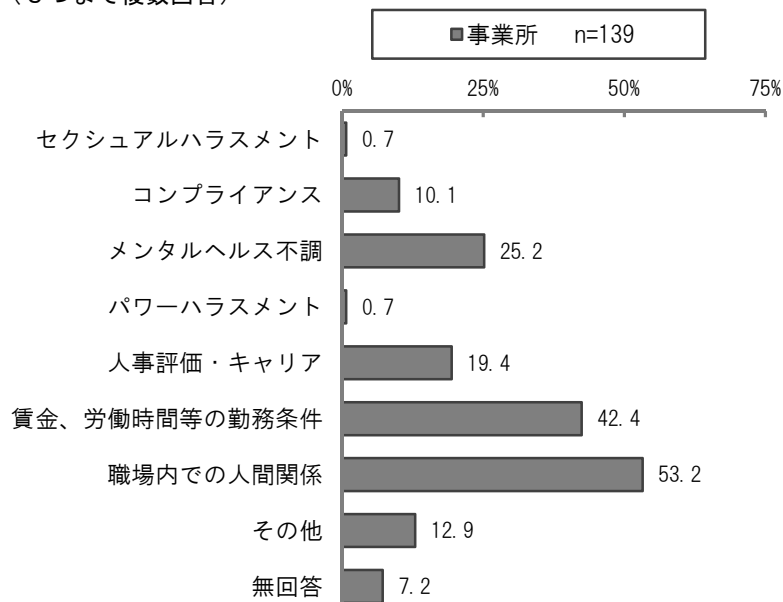


※「取り組んでいる」=100%－「特に取り組んでいない」－「無回答」

(4) 従業員からの相談内容

区内介護サービス事業所での従業員からの相談内容は、「職場内での人間関係」が53.2%で最も高く、次いで「賃金、労働時間等の勤務条件」が42.4%、「メンタルヘルス不調」が25.2%となっています。

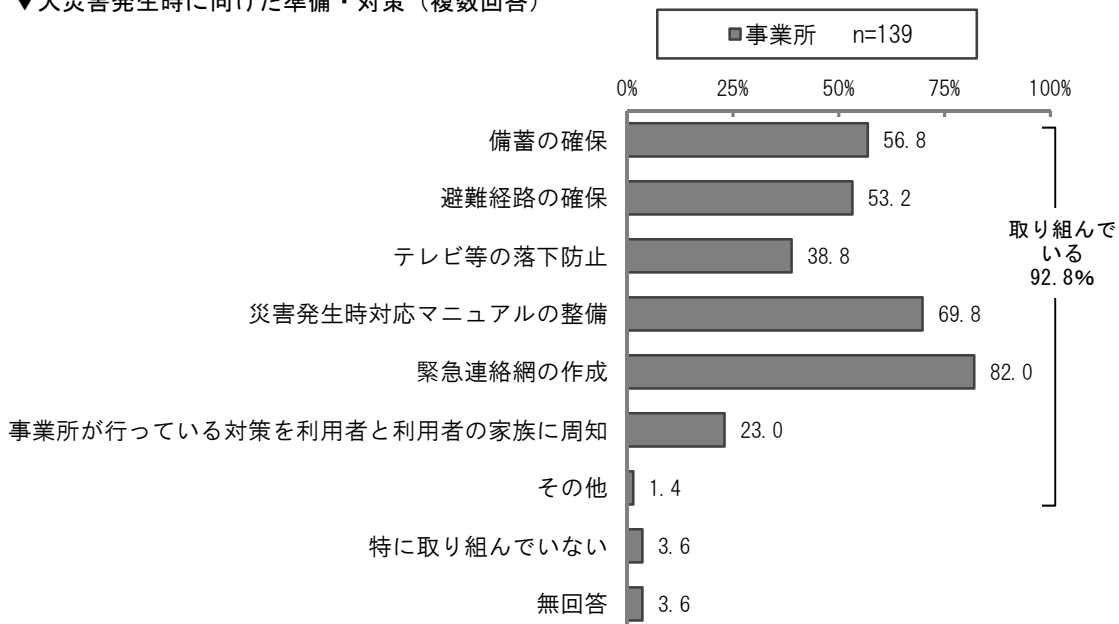
▼従業員からの相談内容（3つまで複数回答）



(5) 大災害発生時に向けた準備・対策

区内介護サービス事業所で、災害発生時に向けた準備・対策に取り組んでいる割合は92.8%で、「緊急連絡網の作成」が82.0%で最も高く、次いで「災害発生時対応マニュアルの整備」が69.8%、「備蓄の確保」が56.8%となっています。

▼大災害発生時に向けた準備・対策（複数回答）

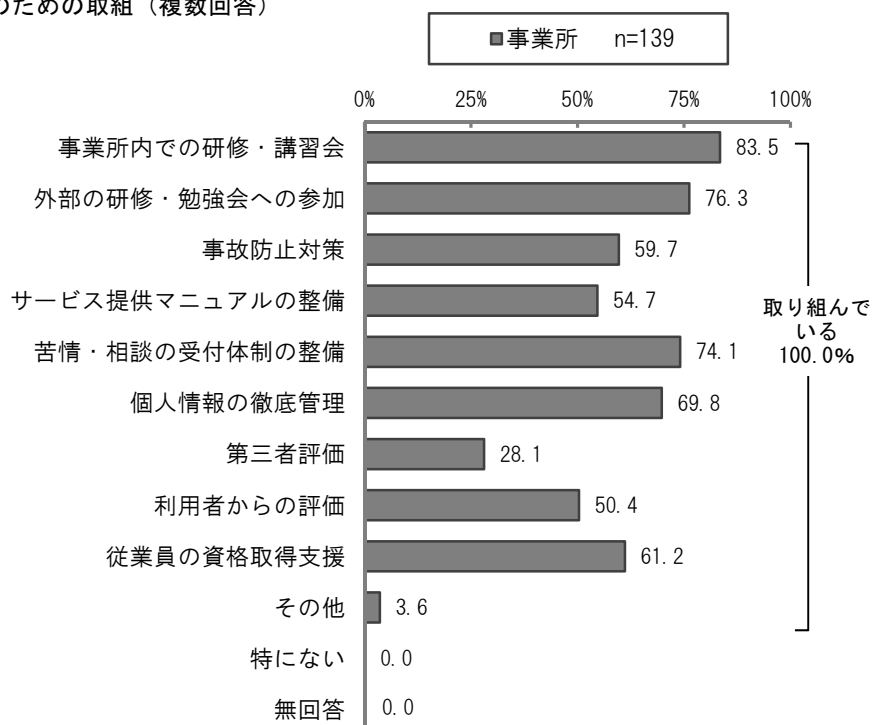


※「取り組んでいる」=100%－「特に取り組んでいない」－「無回答」

(6) サービスの質を向上させるための取組状況

区内介護サービス事業所のサービスの質向上のために取り組んでいる割合は100.0%で、全事業所が取り組んでいます。そのうち「事業所内での研修・講習会」が83.5%で最も高く、次いで「外部の研修・勉強会への参加」が76.3%、「苦情・相談の受付体制の整備」が74.1%となっています。

▼サービスの質向上のための取組（複数回答）

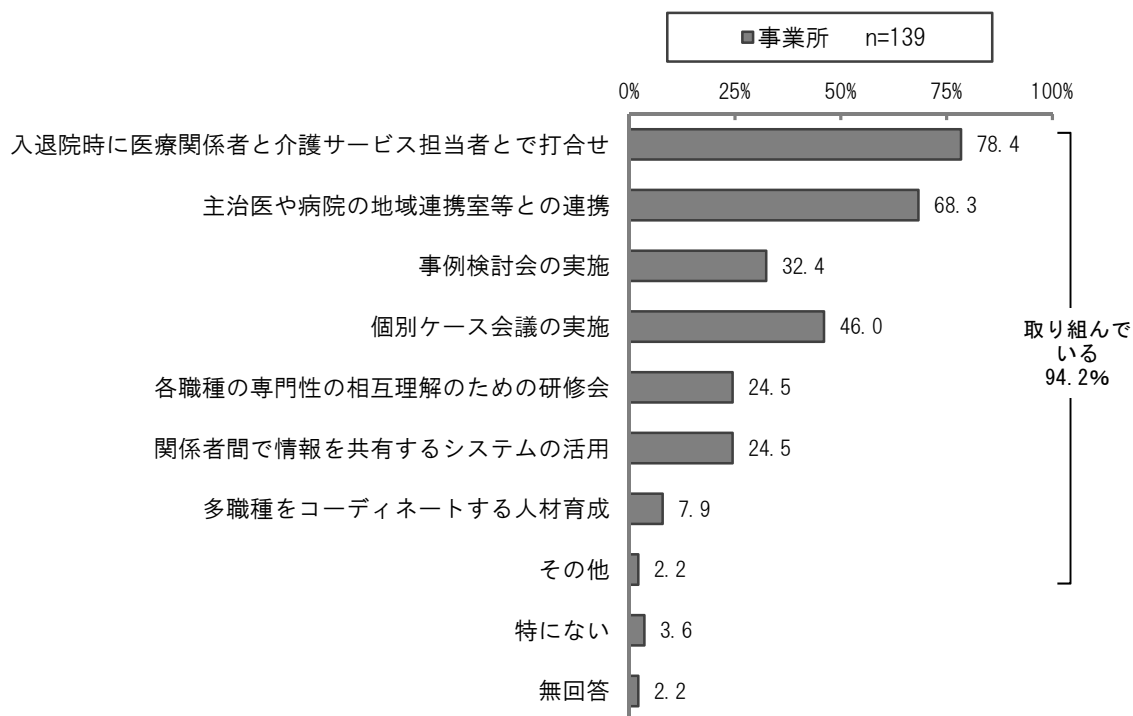


※「取り組んでいる」=100%－「特にない」－「無回答」

(7) 医療との連携について行っている取組

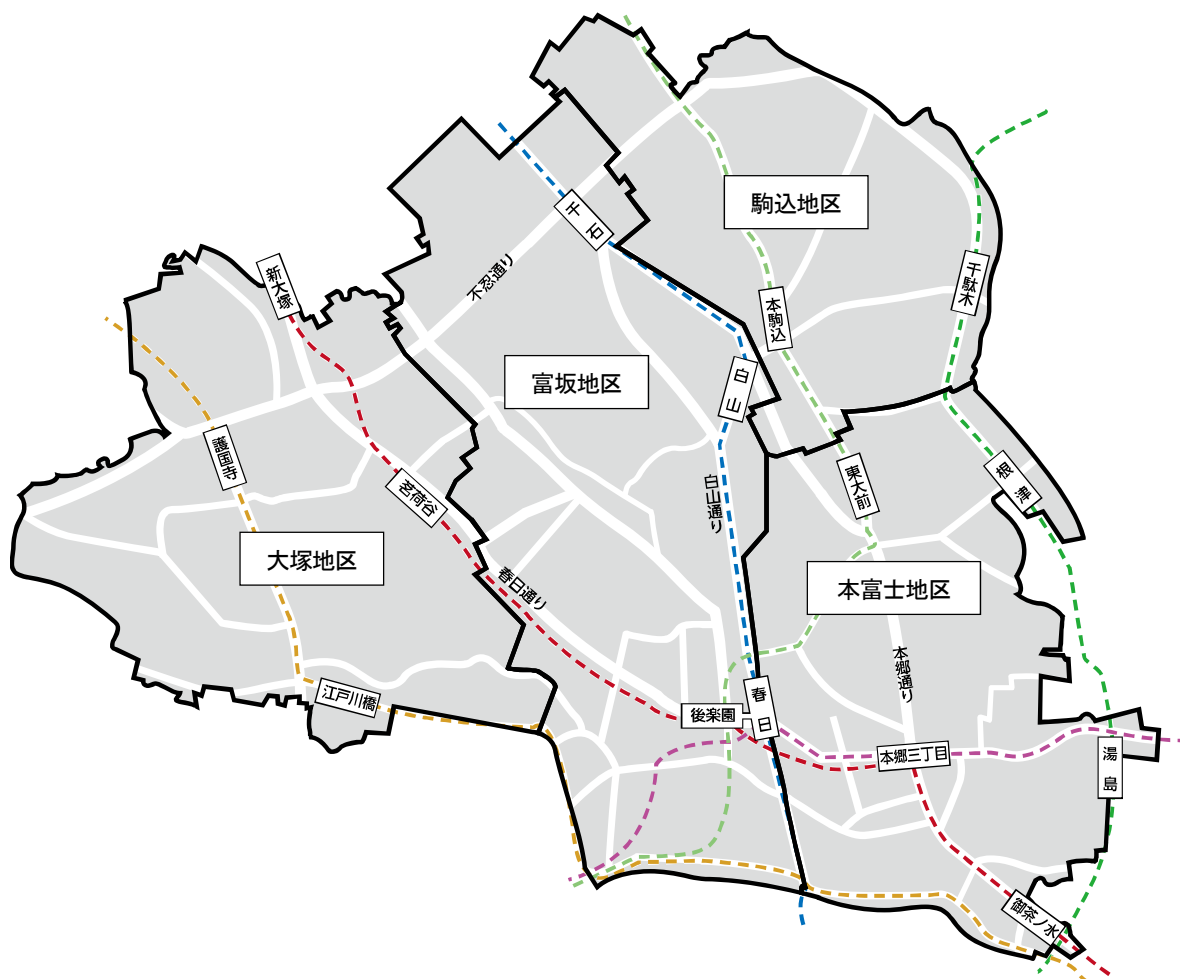
区内介護サービス事業所の医療との連携について取り組んでいる割合は94.2%で、「入退院時に医療関係者と介護サービス担当者との打合せ」が78.4%で最も高く、次いで「主治医や病院の地域連携室等との連携」が68.3%、「個別ケース会議の実施」が46.0%となっています。

▼医療連携の取組（複数回答）



※「取り組んでいる」=100%－「特にない」－「無回答」

▼文京区の日常生活圏域





平成 28 年度高齢者等実態調査報告書 概要版

平成 29 年 3 月発行

発行 文京区福祉部介護保険課
〒112-8555
文京区春日一丁目 16 番 21 号
電話 03-3812-7111 (代表)

実施 アシスト株式会社
〒458-0021
名古屋市緑区滝ノ水五丁目 1310 番地
電話 052-908-0020 (代表)

印刷物番号 F0716094

古紙再生紙を使用しています